

令和2・3年度推進校 道徳授業セミナー指導案

| 学校名・掲載学年 | ページ |
|-------------------------------|-------|
| 1 岩国市立岩国小学校 1, 3, 5年 | 1~13 |
| 2 田布施町立城南小学校 1, 5年 | 14~21 |
| 3 下関市立川中小学校 1, 2, 3, 4, 5, 6年 | 22~39 |
| 4 山口市立小郡中学校 1, 2, 3年 | 40~45 |
| 5 山陽小野田市立高千帆中学校 1, 2, 3年 | 46~51 |
| 6 阿武町立阿武中学校 1, 2, 3年 | 52~57 |
| 7 光市立島田中学校 1, 2, 3年 | 58~64 |

本時の授業の視点

視点1 考える必然性や切実感のある発問

- 「たべかすを見つけたときの心の天気はどれでしょうか。」と問い、心情とその理由を考えることで、しろちゃんの迷いに共感しつつも、誰かがしていてもだめなことはだめだと気付けるようにする。

視点2 物事を多面的・多角的に考えるための交流の在り方

- 畑の持ち主に視点をあてたり、心の天気カードを使って対話したりすることで様々な見方があることに気付かせる。

視点3 自己の生き方について考えることのできる発問と振り返りの在り方

- 終末で、心の天気がピカピカの「はれ」になった経験について問うことで、自分の経験を価値付け、これからの生活の中で進んで正しいことを行おうとする心情を育む。

- 1 主題名 だめなことはだめだよ(Aー善悪の判断、自律、自由と責任)
- 2 教材名 「にんじんばたけで」(「小学道徳 生きる力1年」日本文教出版)
- 3 ねらい 畑でのしろちゃんの心の動きを考えることを通して、自分の都合のよい考えで判断することの間違いに気づき、よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行おうとする心情を育てる。
- 4 主題設定の理由
 - (1) ねらいとする道徳諸価値について
人として行ってよいこと、社会通念として行ってはならないことをしっかりと区別したり、判断したりする力は、児童が幼い時期から徹底して身に付けていくべきものである。よいこと、正しいことについて、人に左右されることなく、自ら正しいと信じることに従って、誠実かつ謙虚に行動することは、人として重要なことである。1年生の段階では、何事にも興味、関心を示し意欲的に行動することが多い反面、まだ集団生活に十分に慣れていないために、引っ込み思案になったり物おじしたりすることも少なくない。積極的に行うべきよいことと、人としてしてはならないことを正しく区別できる判断力を養うことが大切である。よいと思ったことができたときの心地よさや心が元気といった気持ちを知っていくことで、よいと思うことを進んで行うことができる心情を育てたいと思い、この主題を選んだ。

(2) 児童の実態について

本学級の児童30名(男子17名、女子13名)は、何事にも興味、関心をもち、積極的に行動することのできる児童が多い。物事の善悪について、間違ってしまったときには素直にふり返り、謝ったり反省したりすることができる。しかし、トイレのスリッパをそろえなかったり、授業中に喋ってしまったことがある。よくないことだと分かっているにもかかわらず、友達がしているからという理由でついしてしまう児童もいる。また、国語科や道徳科の授業で登場人物の気持ちを表す際に、「うれしい」「いやな気持ち」などの言葉は出るものの、まだ語彙が乏しいため、多様な気持ちを表現することが難しい。

1学期末に実施した重点内容項目についてふり返る3つの心の「心のクローバーチェック」では、よくできたと答えた児童が、「あきらめない心」では22人、「正しい心」では13人、「広い心」では16人という結果から、正しい心を意識させ、物事の善悪を正しく判断し行動する力を身に付けさせたい。また、よいと思うこと、正しいと思うことを行う心地よさや、それがより安全に楽しく学校生活を送ることにつながるということに気付かせたい。

(3) 教材について

本教材は、うさぎたちの「畑に入っちゃいけない」「みんなもやっているからよい」という心の揺れを描いたものである。しろちゃんの心の動きや迷いに注目し、共感させながら誰かがやっても、だめなことはだめだという判断へと変容していく姿を捉えさせたい。さらに、元気に野原を走って行くうさぎの姿から、正しいことを実行することの心地よさにも気付かせ、正しいことを実行することの価値にも気付かせたい。

(4) 指導の工夫について

- 心の天気カードを使い、うれしい気持ちやすっきりという気持ちなどを「はれ」、迷う気持ちなどを「くもり」、悲しい気持ちや残念な気持ちなどを「あめ」で表し、その理由を問うことで多様な気持ちを引き出せるようにする。
- 導入部では、今まで周りに流されて行動してしまった経験について事前アンケートをとったものを提示することで、本時の課題をつかむ。
- 展開部では、ペアで自分の考えを伝え合うことで、友達の考えにも触れられるようにする。その際に、交流しやすいよう、心の天気カードを1人1枚持たせ、天気を指しながら思いを交流させる。また、しろちゃんだけでなく、畑の持ち主の気持ちを考えさせることで、多面的・多角的に考えられるようにする。
- 終末部では、これまでの生活をふり返り、よいと思うことをする心地よさを価値付けることで日常生活において、これからの自分について考えられるようにする。

5 本時

(1)準備物 心の天気カード、場面絵、ワークシート、ペープサート

(2)学習過程

| 展開 | 学習活動・学習内容 | 教師の手立て(○)と評価(◆) |
|--|---|--|
| つ か む ／ 深 め る ／ ま と め る | 1 周りに流されて行動してしまった経験について考え、本時の課題を理解する。 ・これまでの経験(人に流された経験) | ○「みんながしているから自分もしてもよい」と思った経験について事前アンケートをもとに、本時の課題への導入を図る。 |
| | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> よいことかよくないことか、かんがえよう。 </div> ・心のクローバー(正しい心)の提示 2 教材文を読んで3匹のうさぎの心の動きについて考え、話し合う。 ・場面ごとのしろちゃんの行動や気持ち ・立て札の意味と立てた人の気持ち | ○心のクローバーのどの心の学習か意識させる。(正しい心) ○心の天気カードを用いて「はれ」「くもり」「あめ」を選ぶことで、しろちゃんの気持ちの変化を視覚的に分かりやすくする。 ○たべかすを見つけたときのしろちゃんの心情を、ワークシートの心の天気にかかせる。 |
| | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【考える必然性や切実感のある発問】 たべかすを見つけたときの心の天気はどれでしょうか。 </div> | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【物事を多面的・多角的に考えるための交流の在り方】 ○心の天気カードをもとに、ペアで考えを伝え合い、全体で共有することで、全体の場で発表しやすくすると共に、様々な意見に触れられるようにする。 </div> |
| | ・にんじんを食べたい気持ち ・どうしようと迷う気持ち ・周りに流されない強い気持ち ・たてふだに従おうとする判断力 3 野原を元気に走って行ったときの気持ちを考え、話し合う。 ・よいと思うことをする心地よさ(ピカピカの「はれ」) ・正しい判断をした喜び | ○全体で交流するときは、選んだ天気のを児童に問い返し、心情を深く掘り下げることで、うさぎたちの発言や、たてふだ、たべかすなどに影響されるしろちゃんの心の揺れに気付かせる。 ○板書は、心の天気ごとに分けて書き、ペープサートのしろちゃんを動かして心の揺れを視覚的に分かりやすくする。 ◆②〈発言・ワークシート〉 ○叱られるからだめだという考えだけでなく、育てている大切なにんじんだからだめだという考えに気付かせるため、たてふだに着目させ、畑の持ち主の気持ちについて考えさせる。 ○心の天気を比べさせ、同じ「はれ」でもどの場面がよりよい「はれ」(ピカピカの「はれ」)かを考えさせることで、よいと思うことをする心地よさを価値付ける。 |
| | 4 自分の生活と関連付けて考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【自己の生き方について考えることのできる発問】 何をしたとき、心の天気がピカピカの「はれ」になりましたか。 </div> ・教師の話 ・これまでのよいと思うことをした経験 | ○よいと思うことをする心地よさ(ピカピカの「はれ」)を自分の経験に置き換えて考えることで、自分の行動をふり返らせる。 ◆④〈発言〉 ○教師の体験談を話すことで、周りに流されることなく、よいと思うことを進んで実践しようとする心情を高める。 |
| 5 今日の学習をふり返る。 ・心のクローバー(正しい心)の確認 | ○心のクローバーのどの心の学習だったかふり返る。(正しい心) | |

6 評価

一面的な見方から多面的な見方へと発展させているかどうか。

② 自分と違う立場や考え方を理解しようとしている。

道徳的価値理解を自分自身との関わりの中で深めているかどうか。

④ 読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしている。

7 板書計画

アンケートの結果

にんじんばたけで

よいことがよくないことが、かんがえよう。

うさちゃん

しろちゃん

びんちゃん

「だれかがたべているよ。」

うさちゃん

- ・ やったあ！たべられる！
- ・ だれかもたべているからいいよね。
- ・ どうしよう…

「そうかなあ。」

びんちゃん

- ・ はいっただめってかいてあるからだめだよ。
- ・ だれかがたべていてもだめだよ。

はたけにはいるな

だいたいなんじんだからとらないでほしい。

はたけにはいるな

だいたいなんじんだからとらないでほしい。

「こころがげんき」

まもちゃん

- ・ えだてているひとがかなしまなくてよかった。
- ・ いいことしたからきもちいいな。
- ・ がまんしてよかった。

たべたい。

おなかすいたな。

おいしそう。

でもがまんできない。

たべられない。

ワークシート

にんじんばたけで

〇「こころのてんきであらわそう。」

たべかすをみつけたとき

てんき

わけ

なまえ

がくしゅうをふりかえろう

しつり
かみま
ことか
あたま
ことか
ことか
ことか

こぼれ
しん
ことか
ことか
ことか

あきらめない心
ただしい心
ひろい心

心の天気カード

～こころのてんきカード～

はれ

くもり

あめ

本時の授業の視点

視点1 考える必然性や切実感のある発問

○友ちゃんが「もうやめたいなと思ったのに、練習を続けたのはどうしてでしょう。」と発問することで、主人公の強い意志を確認できるようにする。

視点2 物事を多面的・多角的に考えるための交流の在り方

○友ちゃんが、練習を続けようと思った理由を考え、グループで意見を交流し色々な考えに触れさせることで、前向きに頑張るためには様々な要因があることに気付かせる。

視点3 自己の生き方について考えることのできる発問と振り返りの在り方

○「頑張りたいことを続けるために、どんなことを大切にしたいですか？」と発問することで、本時の学習を通して、これから困難に出合ったとき、どのように取り組んでいきたいかを自分事として考えられるようにする。

- 1 主題名 やろうと決めたことは (A-希望と勇気、努力と強い意志)
- 2 教材名 「がんばれ友ちゃん」(「小学道徳 生きる力3年」日本文教出版)
- 3 ねらい 友ちゃんが苦手な逆上がりに取り組み続ける理由を考えることで、自分でやろうと決めた目標に向かって、粘り強くやり抜こうとする心情を育てる。

4 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳諸価値について

児童が一人の人間として自立し、よりよく生きていくためには、常に自分自身を高めていこうとする意欲をもつことが大切である。そのためには、自分の目標をもってその達成に向けて粘り強く努力するとともに、やるべきことはしっかりとやり抜く忍耐力を養うことが求められる。3年生は、勉強や運動だけではなく、様々なことに興味・関心を広げ、活動的になる段階である。自分の好きなことに対しては、自ら目標を立て、継続して取り組むようになり、計画的に努力する構えも身に付いていく。その反面、つらいことや苦しいことがあると、途中で諦めてしまうこともある。そこで、自分がやらなければならないことだけでなく、更に自主性を発揮し、自分でやろうと決めた目標に向かって強い意志をもって、粘り強くやり遂げる精神を育てることが大切になる。くじけず努力し続けることで、今よりも自分を高められることに気付かせ、困難に出会っても前向きに考えようとする心情を育てたい。

(2) 児童の実態について

本学級の児童34名(男子16名、女子18名)は、自分の興味・関心の高いことに対しては、進んで取り組む姿が多く見られる。1学期に行った道徳の授業(「うまくなりたけれど」A-希望と勇気、努力と強い意志)で、苦手なことや今できないことに対して、大切なことは何か話し合ったときには、「諦めずにやってみる。」「挑戦してみる。」など前向きに取り組もうとする意見が多く出た。1学期末に実施した心のクローバーチェックでも、あきらめない心(自分の目標に向かって粘り強く取り組む)の振り返りは、よくできた21人、できた10人、もう少し3人という結果が得られ、クラスの半数以上ができていていると感じているようである。しかし、実際には苦手なことや興味・関心が低いものに対しては、取り組む前から、「やりたくない」といった否定的な言葉が聞かれたり、やってみても途中で結果が出ないと、すぐに諦めてしまったりすることも多い。

苦手なことや嫌いなことから逃げずに頑張ることは、自分自身を成長させるということに気付かせたい。

(3) 教材について

本教材は、逆上がりができなかった友ちゃんが、友達や先生の励ましもあり、努力して逆上がりができるようになった場面が取り上げられている。学校生活の中で身近に起こりうることであり、児童にとって友ちゃんの苦悩や頑張りに共感しやすい教材である。1学期に実施した「うまくなりたけれど」を通して、苦手なこともやってみようという気持ちをもたせることができたので、さらに本教材では、苦手なことでも、諦めずにこつこつ努力することで、より大きな喜びにつながることに気付かせたい。

(4) 指導の工夫について

- ・友ちゃんの顔の挿絵を場面ごとに提示することで、気持ちの変化を捉えることができるようにする。
- ・ハートグラフを用いて、友ちゃんの気持ちや自分自身の気持ちを表し、気持ちの変化に気付くことができるようにする。どの児童も安心して思いを表現できるようにする。
- ・導入部では、現在の自分が頑張っていることを発表させ、ハートグラフを用いて状況を確認、意識付けをする。
- ・展開部では、友ちゃんが練習を続けようと思った理由を話し合わせることで、前向きに頑張るためには様々な要因があることに気付かせる。
- ・自分の考えを付箋に書き、グループで伝え合うことで、友達の考えを視覚的に捉えられるようにする。また、考えをグルーピングすることで多面的・多角的に捉えるようにする。
- ・終末部では、みんなの考えを共有することで、本時の学習を振り返り主人公の姿を自分の生き方に活かそうという気持ちをもつことができるようにする。

5 本時

(1) 準備物 ワークシート・挿絵・ハートグラフ・付箋・心のクローバーシート・タブレット

(2) 学習過程

| 展開 | 学習活動・学習内容 | 教師の手立て(○)と評価(◆) |
|-----|---|--|
| つかむ | <p>1 本時の課題を把握する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・頑張っていること ・どのくらい挑戦したか | <p>○2学期の目標について、ハートグラフを用いて状況を確認、意識付けをする。</p> |
| ／ | <p style="text-align: center;">がんばりたいことをつづけるためには、何が大切でしょう。</p> <p>2 あらすじを確認し、友ちゃんの気持ちを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何度やってもうまくいかないときの苛立ちやくやしき ・「あなたのできるわざでいいのよ」と言われたときのくやしき ・もうやめたいなというあきらめの気持ち | <p>○運動が得意な友ちゃんが鉄棒だけできないということを押さえ、くやしさに共感させる。</p> <p>○友ちゃんの気持ちをハートグラフで表し、ほっとした気持ちよりも、くやしい気持ちの方が強いことを確認する。</p> <p>○挿絵を提示することで、友ちゃんの気持ちがより伝わるようにする。</p> |
| 深める | <p>3 友ちゃんが練習を続けようと思った理由を考え話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【考える必然性や切実感のある発問】 もうやめたいなと思ったのに、練習を続けたのはどうしてでしょう。</p> </div> | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【物事を多面的多角的に考えるための交流の在り方】 理由を付箋に書かせることで、一人ひとりが自分の考えをもって話し合いに参加できるようにする。グループで「心のクローバー」に付箋を貼っていき、グルーピングしていくことで、多面的・多角的な考えがあることに気付かせる。</p> </div> |
| ／ | <ul style="list-style-type: none"> ・自分でやろうと決めた目標に向かう強い意志 ・今よりよくなりたいという強い願い ・やり続けることの大切さ ・他者からの励ましや称賛による頑張り | <p>○グループで出た考えを発表させ、分類して板書することで、様々な理由を全体で共有できるようにする。</p> <p>◆①〈発言〉</p> |
| ／ | <p>4 逆上がりができたときの気持ちを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やり切ったときの達成感 ・できるようになったことへの満足感 ・やり続けてきたことの充実感 ・自分への自信 ・周囲の応援や支えへの感謝 | <p>○大きな喜びがあったことが分かるように、大きな笑顔の挿絵を提示することで、友ちゃんの気持ちや周りの人の喜びを感じることができるようになる。</p> <p>○逆上がりができたときの友ちゃんの気持ちをハートグラフで表すことで、嬉しさに共感できるようにする。</p> |
| まとめ | <p>5 自分の生活と関連付けて考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【自己の生き方について考えることのできる発問】 頑張りたいことを続けるために、どんなことを大切にしたいですか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・諦めない心 ・自分の気持ち | <p>○ハートグラフを用いて今までの自分を振り返ることで、本時の学習を通して、これから困難に出合ったときどのように取り組んでいきたいかを考えられるようにする。</p> <p>◆⑦〈発言・ワークシート〉</p> |

6 評価

一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているかどうか。

- ① 道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やそのときの心情を様々な視点から捉え考えようとしている。

道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかどうか。

- ⑦ 道徳的価値の実現することの難しさを自分のこととして捉え、考えようとしている。

7 板書計画

がんばれ友ちゃん
 友ちゃん
 とくいでつぼうだけ苦手
 何度やってもうまくいかない
 ・なんでも、できないんだらう。
 ・くやしい
 「あなたのできるわざで上がればいいのよ」
 (ピンク)
 ・逆上がりができるようになりたい。
 ・やつぱりくやしい
 (ブルー)
 ・よかった。
 ・少し安心した。
 毎日練習
 ・休み時間 一日目
 ・ほうか後 二日目
 三日目 手には、いくつものまめ
 四日目 こつがすこしわかった
 体育の時間
 もう少しのところでできなかった。
 「もうやめたいな」
 ・こんなに練習したのにできない。
 ・もう、できないすがたは、見られたくない。
 ・もう、つかれた。
 もうやめたいなと思つたのは、練習をつづけたのはどうしてでしょう。
 ・できるよになりたい。
 ・くやしい。
 ・あともう少しとつた
 ・先生にはげまされた
 ・友達にこつを教えてもらった。
 ・自分で決めたから
 正しい心
 ・友達のおうえん
 広い心
 やった!
 うれしい!
 がんばってよかった。
 がんばりたいことをつづけるためにどんなことを大切にしたいですか。
 ・自分で決めたことはあきらめずにがんばりたい。
 ・あきらめない心でがんばる。

ワークシート

がんばれ友ちゃん
 三年()組()番(名前)
 一「もうやめたいな」と思つたのに、練習をつづけた理由

二 がんばりたいことをつづけるために、どんなことを大切にしたいですか。

今日の学習はどうでしたか。あてはまるところに○をつけましょう。

しっかり考えた

新しく気づいたことがあった

これから大切にしたいことがわかった

本時の授業の視点

視点1 考える必然性や切実感のある発問

- 「よし子とえり子のどちらが悪いですか？」と発問することで、よし子とえり子がそれぞれ自分本位な理解の仕方で行動してしまったことに気付かせる。
- 「よし子は待っている間、自分とえり子のどちらのことを多く考えていたでしょうか。」と発問することで、自分と異なる意見や立場を大切にすることはどういうことか考えを深めさせる。

視点2 物事を多面的・多角的に考えるための交流の在り方

- ハートグラフをオクリンクで共有することで、様々な考えがあることに気付き、他者の考えを理解しやすくする。

視点3 自己の生き方について考えることのできる発問と振り返りの在り方

- これまでの自分とこれからの自分に目を向けさせることで、本時で学んだ道徳的価値を自分の生活にどのように生かしていけるか考えさせる。

- 1 主題名 相手の立場もたいせつに(B-相互理解、寛容)
- 2 教材名 「すれちがい」(「小学道徳 生きる力5年」日本文教出版)
- 3 ねらい よし子とえり子のすれちがいの原因や、お互いを理解するために大切な気持ちを考えることを通して、自分と異なる意見や立場を尊重しようとする態度を育てる。

4 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳諸価値について

本主題はお互いを理解するために大切な気持ちを考えることから、自分とは異なる意見や立場を尊重しようとする態度を養うことをねらいとしている。よりよい人間関係を築くためには、異なる意見や立場をもつ者同士が互いを尊重するだけでなく、自分も過ちを犯すことがあることを自覚して他人の過ちを許すことのできる寛容さと謙虚さが必要である。5年生の段階では、自分のものの見方や考え方についての認識が深まることから、相手のものの見方、考え方との違いをそれまで以上に意識するようになる。また、この時期には、考えや意見の近い者同士が接近し、そうでない者を遠ざけようとする行動が見られることがある。そのような時期だからこそ、相手の意見を素直に聞き、なぜそのような考え方をするのかを、相手の立場に立って考える態度を育てることが大切である。

(2) 児童の実態について

本学級の児童28名（男子14名、女子14名）は、道徳科の授業で学んだ価値観を生活の中で意識し、生かそうとする気持ちをもっている。また、一部の児童に限られるが、自分なりの考えを進んで発表しようとする意欲をもっている。1学期のふりかえりで行った心のクローバーチェックでは、「広い心」の項目は、「よくできる」と答えた児童は、11人、「できる」と答えた児童は15人であった。自由記述では、「もう少し友達の立場になって行動すればよかった。」「友達のことを考えて話したり、動いたりした。」と答えた児童がいた。学習や遊びの中で、友達と協力し合いながら取り組む姿勢が見られるが、時として他人の失敗に対しあからさまに落胆したり相手に対しての態度が投げやりになったりすることがある。友達と意見が分かれたときにも、自己中心的な見方や考え方に捉われ、相手の立場が理解できなかつたり、頭では相手の気持ちを考えてようとするが、感情が抑えきれず、相手を責めたりする面も見られる。

(3) 教材について

本教材は、ピアノ教室に行く約束をしたよし子とえり子が、それぞれ自分本位な理解の仕方で行動してしまったために約束を守ることができなくなり、互いに腹をたててしまうという2人の日記作文を題材にしている。自分の立場や思いだけを優先し、相手の立場や状況を考えない登場人物から「自分と異なる意見や立場」に対する姿勢について考えることができる教材である。児童は、登場人物が相手のことをどれだけ考えているのかを考えることで、自分と異なる意見や立場を尊重することの難しさに気付くことができる。それとともに、相手の過ちなどに対しても、自分にも同様のことがあると自覚して謙虚な心、広い心で受け止め、適切に対処することの大切さに気付くことのできる教材である。

(4) 指導の工夫について

- ・「すれちがい」とは、どのようなものか児童がイメージできるように、事前に「すれちがい」に対するこれまでの経験やトラブルについてアンケートをとる。
- ・登場人物の行動を整理しやすいように、「すれちがい」が起こったところほどの部分であるかという観点を示してから、事前に教材を読ませておく。
- ・教材の中では双方の都合や事情が読み取れるが、現実には一方の立場にしか立てない。そこで、登場人物がどのように行動すればよかったかを問うのではなく、すれ違いが起こったときの心情を考えさせることで、自分本位の考え方にとらわれることが、互いの行動の原因となってしまったことに気付かせたい。
- ・相手の都合や事情が分からず、自分本位に解釈してしまうことを抑えるには、相手のことを「～かもしれない」と想像することが大切であり、相手に自分の都合や事情が伝わっていないかもしれないと想像することで、自分の考えをきちんと伝えようとするすることができる。登場人物がそれぞれ相手のことをどのように考えているかを問うことによって、相互理解のためには想像力が必要であることに気付かせたい。
- ・導入で「すれちがい」が起こったときの気持ちやその後の行動を問うことでこれまでの自分の考えを表出させておき、終末で「相手の立場も大切にするとはどういうことか」と問うことで、本時の学習を通しての「相互理解・寛容」に対する児童の考えの変容及び深化を捉えられるようにする。

5 本時

(1) 準備物 ワークシート・挿絵・タブレット

(2) 学習過程

| 展開 | 学習活動・学習内容 | 教師の手立て(○)と評価(◆) |
|------|---|--|
| つかむ | <p>1 「すれちがい」が起こったときの気持ちやその後の行動を考え、本時の課題を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「すれちがい」の経験とその時の気持ち | <p>○アンケートをもとに、「すれちがい」に対するこれまでの経験を想起させ、そのときの気持ちやその後の行動について、現段階の考えを聞く。</p> |
| ／ | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>相手の立場も大切にすると、どういうことでしょうか？</p> </div> <p>2 なぜ「すれちがい」が起こったのかを考え、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「すれちがい」があった点を整理 ・よし子の気持ち ・えり子の気持ち <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【考える必然性や切実感のある発問】 よし子とえり子のどちらが悪いですか。</p> </div> | <p>○出来事をまとめたものを示すことで、2人の間に起こった「すれちがい」を整理する。</p> <p>○よし子とえり子の気持ちをおさえることで、それぞれの立場の気持ちに共感できるようにする。</p> <p>○よし子とえり子の気持ちをおさえた上で、どちらが悪いかと問うことで、2人がそれぞれ自分本位の行動をしていることに気付かせる。</p> <p>◆②〈発言・ワークシート〉</p> |
| 深める | <p>3 「相手の立場も大切にすると、どういうことか」を考え、話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【考える必然性や切実感のある発問】 よし子は、待っている間、自分とえり子のどちらのことを多く考えていたでしょうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・待っている間のよし子の気持ち(ハートグラフ・ふき出し) ・待たされたらだち ・相手を心配する気持ち ・「～かもしれない」という相手への想像 | <p>○待たされていたのは「よし子」であることに触れ、待っている間のよし子の気持ちを考えさせることで、「相手の立場も大切にすると、どのようなことが必要なのか」気付かせる。</p> <p>○自分と相手のことを考えている割合を7つのハートグラフから選択することで考えを表出しやすくする。</p> |
| ／ | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【物事を多面的・多角的に考えるための交流の在り方】</p> </div> <p>○ハートグラフをオクリンクで共有することで、様々な考えがあることに気づき、他者の考えを理解しやすくする。</p> <p>○ハートグラフをもとによし子が考えていることは自分のことなのか、相手のことなのかを問うことで、待っている間に必要だった気持ちを交流させる。</p> <p>◆②〈発言・ワークシート〉</p> | <p>◆②〈発言・ワークシート〉</p> |
| まとめる | <p>4 自分の生活と関連付けて考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【自己の生き方について考えることのできる発問】 相手の立場も大切にすると、どういうことでしょうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・相手のことを想像する。 ・広い心で相手を許す。 | <p>○自分と相手の割合がどうなればよいのか、ハートグラフに表すことで「相手の立場も大切にすること」に対する自分の考えを整理する。</p> <p>○本時の学習を通して、これまでの自分と考えがどのように変わったか、または深まったかを考えられるようにする。</p> <p>◆⑦〈発言・ワークシート〉</p> |

6 評価


一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているかどうか。

② 自分と違う立場や考え方を理解しようとしている。


道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかどうか。

⑦ 道徳的価値の実現することの難しさを自分のこととして捉え、考えようとしている。

7 板書計画



えり子



よし子

相手の立場も大切にすると、

- 相手のことがわからないときは想像する。
- 自分のことばかり考えない。
- 自分のことも伝えて、相手の話を聞く。
- 広い心で相手を許す。

えり子(赤)

- 相手に電話すべきだった。
- よし子はえり子に電話をしている。

よし子(青)

- 勝手に広場に行った。
- 急におつかいを頼まれたから仕方ない。
- えり子の話を聞こうとしない。


すれちがい

- 何やってるんだろう。
- 電話もしてこないで。
- ずっと待ってるのに。
- 約束したのに。
- 急に用事ができたのかもしれない。
- 何かあったのかもしれない。

よし子

- イライラした。
- 腹が立った。
- 困った。
- けんかになった。
- そのままにした。
- 口をきかない。

◎相手の立場も大切にすると、
 どういうことでしょうか。



事前アンケート

道徳アンケート

5年 組()

① 今まで誰かと「すれちがい」があったことがありますか。

すれちがい…約束していたのに、待っていても相手が来なかったり、自分が行けなかったりしたことなど

ある ない

② 「ある」と答えた人で、具体的にどのような出来事でしたか。

2人の出来事

| | | |
|---------------------------------|--|---|
| | よし子 | えり子 |
| 約束 ・いっしょにピアノ教室に行く ・また電話する | ・ピアノの練習をしていた ・お母さんはおとなりに行ってた ・電話をかけた ・えり子はおつかいに行っている ・2時頃いつもの広場で待っていると伝言 | おつかいをたのまれた ・電話をかけた(でなかった) ・スパーに行く |
| 広場に行く(えり子を待つ) 一人でピアノ教室に行く | 母「いそいで行きなさい」 えり子「わあ大変」 広場に行く ピアノ教室に行く | 「ごめんね、あの…」 |

ハートグラフ (7つの中から選択)



ワークシート

③

自分(青)

「相手の立場も大切にする」とは、


| | | | |
|--|--|--|--|
| | | | |
|--|--|--|--|

③

えり子(赤)

よし子は、待っている間、自分とえり子のどちらのことを多く考えていたでしょうか。

よし子(青)



①

よし子とえり子のどちらが悪いですか。

よし子

えり子

理由

④

すれちがい

五年()組()番 名前()

今日の学習はどうでしたか。あてはまるところに○をつけましょう

しっかり考えた

新しく気づいたことがあった

これから大切にしたいことがわかった

第1学年 道徳科学習指導案

- 1 主題名 よいこと悪いことを区別する (A 善悪の判断、自律、自由と責任)
- 2 教材名 けいじばんのらくがき (「しょうがくせいのだうとく 1」廣済堂あかつき)
- 3 ねらい ごりおくんにいじわるされたばんくんの判断と行動の問題について話し合い、整理することを通して、よいことと悪いこととの区別をする道徳的判断力を高める。

4 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

本主題は、内容項目 A 善悪の判断、自律、自由と責任「よいことと悪いこととの区別をし、よいと思うことを進んで行うこと。」に基づくものである。低学年の段階においては、何事にも興味・関心を示し意欲的に行動することが多い半面、まだ集団生活に十分に慣れていないために、引っ込み思案になったり物おじしたりすることも少なくない。低学年のうちに、積極的に行うべきよいことと、人間としてしてはならないことを正しく区別できる判断力を養うことが大切である。身近な事例を踏まえ、人間としてしてはならないことをしないことについて、一貫した方針をもち、毅然とした態度で指導していくことが重要である。

本校は、「自分で考え、最後までやり抜く子」をめざす児童像の一つにしている。また、研究主題に掲げる「自立」の姿として、「自分の考えをもち、自ら行動する」ことを目標にしている。本主題「善悪の判断、自律、自由と責任」は、人間としての生き方の基盤になる重要な道徳的価値である。本校の学校教育目標につながる大切な内容項目として、この授業で指導する。

(2) 子どもたちの実態

本学級の児童（男子4名女子3名）は、学校や学級でのきまりや約束の大切さを理解し、正しいと思うことややらなければいけないことに素直に取り組もうとしている。また、友達のよいところをまねしたり、がんばっていることを認めたりできる。しかし、その場の雰囲気流されたり、やりたいことがあったりすると、自分のことだけを考えて行動したり、正しい判断ができなかったりすることがある。さらに、自分の行為の結果がどうなるかに想像が及ばず、衝動的な行動に走ることもある。何がよくて何がよくないのかということをよく考えることの大切さに気付かせていきたい。

(3) 教材について

本教材は、意地悪なごりおくんをこらしめようと森の掲示板にばんくんがうその情報を書き込み、それが学校中のみんなに伝わり、ごりおくんが笑い者になってしまったという内容である。もしかすると学校だけではなく、森のみんなが知ることになってしまったかもしれない。自分の行為の結果と、その影響の大きさに気付いたばんくんについて共感的に理解しながら、よいこと、悪いことを区別する判断力を養うことのできる教材である。

(4) 指導の手だて

そこで、指導にあたっては、次の点に留意したい。

- ・ 道徳的価値について深く考えさせる発問を工夫する。

ばんくんが落書きをした時と消しに行こうと思っている時の理由を問い、ばんくんの気持ちが変わっていく様子やそれぞれの場面でもいろいろな気持ちがあることが捉えられるようにする。そのために、時系列に沿って内容や気持ちをおさえていくようにする。

また、ばんくんの友達になったつもりでという仮定で発問をすることにより、多様な考え方を引き出すようにする。

- ・ 主体的な学習を促す指導方法を工夫する。

ばんくんが落書きを消しに行こうとする思いを吹き出しに書かせることにより、ばんくんの思いを共感的に考え、自分のことと結び付けて考えることができるようにする。

役割演技を取り入れることにより、登場人物の立場になって考え、自分の言葉で思いを表出することができるようにする。子ども達が主体的に考え、演じることを通して、ねらいとする道徳的価値に対する理解を深めるようにする。

5 準備 挿絵、センテンスカード、ワークシート、お面、掲示板の写真、導入で使用する状況絵

6 学習の展開

| | 学習活動・学習内容 | T 主な発問 C 予想される児童の反応 | ○教師の手だて ◎評価【方法】 |
|-------------|--|--|--|
| 導 入 ／ | 1 絵の状況について考え、本時の学習課題を知る。 ・ 課題の把握 | T この絵を見て、どう思いますか。 C いけん。泣かしてる。 C 叩いてはだめ。 T 実は、この絵の前にこんなことがありました。これでは、どうでしょう。 C あっ。どっちも悪い。 | ○ 普段の生活で起こりうることを思い出すことにより、ねらいとする道徳的価値への方向付けを図る。 |
| | こんなとき、どうしたらいいのかな。それはなぜだろう。 | | |
| 展 開 | 2 教材「けいじばんのらくがき」を視聴し、話し合う。 ・ 落書きするばんくんの心情 ・ 落書きの影響を知ったばんくんの気付き ・ ばんくんの判断と行動 | T ばんくんはどんなことを思いながら落書きをしたのでしょうか。 C いつも意地悪されているからお返しだ。 C 懲らしめてやる。 C ああ、すっきりした。 T 早く消しに行かなきゃと思ったのはどうしてでしょう。 C あんなこと、書かなければよかった。 C ぼくのせいだ。ごりおくんを泣かせてしまった。 C 掲示板に嘘を書いてはいけなかった。 | ○ 掲示板について説明をし、不特定多数の人に情報を伝えるというイメージをもたせるようにする。 ○ 行動の理由を問うことにより、ばんくんの中にある自己中心的な思いや他律的な思いに気付かせるようにする。 ○ うさちゃんの言葉や胸がドキドキしてきたことも手掛かりに吹き出しに思いを書かせ、ばんくんの行動の影響の大きさや後悔していることに気付かせるようにする。 |
| | 3 役割演技を通して価値に対する考えを広げたり深めたりする。 ・ ばんくんの行動を促すような言葉 | T ☆あなたがばんくんの友達なら、落書きを消しに行こうとしているばんくんにどんな声をかけてあげますか。 C 掲示板はみんなの物だから落書きしちゃだめだよ。だから、早く消しに行こう。 C 意地悪されても、落書きしてはいけないよ。一緒に消しに行っ | ○ ばんくとばんくの友達になって役割演技を行い、自己との関わりにおいて考えさせるようにする。また、役割を交代することにより客観的に捉えられるようにする。 ◎ よいことと悪いことをよく考えて行動すること |

| | | | |
|----------------------|--|--|--|
| <p>／ 終 末</p> | <p>4 本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 善悪の判断 ・ よく考えて行動することのよさ | <p>あげる。</p> <p>C 嘘を書くのはよくないよね。次からはやっちゃだめだよ。</p> <p>C 自分から落書きを消しに行くのはえらいね。</p> <p>C 今度意地悪されたら、一緒に「やめて。」って言ってあげるよ。</p> <p>T 今日の学習で大切なことは何だと思いましたか。それはなぜですか。</p> <p>C してよいことかどうか、よく考える。だって、悪いことはしてはいけないから。</p> <p>C 正しいことをしなくてはいけない。だって、うそはだめだから。</p> <p>C 自分のことだけでなく、周りのことも考える。だって、他の人が困るから。</p> | <p>の大切さについて自分と関わらせながら考えている。</p> <p>【観察・発言・ワークシート】</p> <p>○ 学習を振り返りながら考えさせることで、これからの生活に生かせるようにする。</p> |
|----------------------|--|--|--|

※ ☆印は中心的な発問

7 板書計画

11 / 11

めあて
なにかするときは よくかんがえて
けいじばんのらくがき

でも、もりのけいじばんにかいてあったよ。

挿絵

いじわるのしかえしだ
こらしめてやる。
すつきりした。

挿絵

はやく、けしにいかなきゃ。

挿絵

どうしよう。 おこられるかなあ。
うそをかいてしまった。
みんな しんじてしまった。
ざりおくんをなかせてしまった。
あんなこと、かかなければよかった。

よくかんがえる。
じぶんのことだけかんがえない。
いけないことはしてはいけない。

それは、なぜだろう。

こんなとき、どうしたらいいのかな。

研究主題 **自立に向けて、共によりよく生きようとする児童の育成**
～自己を見つめ、他者と関わり合いながら考えを深める道徳科の授業の工夫～

第5学年 道徳科学習指導案

- 1 主題名 誠実に明るい心で (A 正直、誠実)
- 2 教材名 妹のカード (「小学生の道徳5年」 廣済堂 あかつき)
- 3 ねらい さやかへの行動の理由や心の動きについて考えることを通して、誠実であることの良さに気づき、誠実に明るい心で生活しようとする道徳的実践意欲を育む。

4 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

本主題は、内容項目A正直、誠実「誠実に、明るい心で生活すること」に基づくものである。過ちや失敗は誰にでも起こりうることであり、また、その過ちや失敗に対して、嘘やごまかしで自己保身を図りたくなる弱さも人間はもっている。高学年になると自分の行動によって他人にどのように思われるかが気になったり、良くないことであると知りつつも自分の意に反して周囲に流されてしまったりすることがあると考えられる。本主題では、失敗を素直に反省し、誠実に改めることで明るい心で生活していけるということに気付かせたい。また、誠実な行動ができなかった時は後ろめたさや心地の悪さが残るだけであり、その場を取り繕うだけでは根本的な解決にならないことを理解させ、誠実であることの大切さに気付かせ、実践的意欲を育てたい。

本校は、「自分で考え、最後までやり抜く子」をめざす児童像の一つにしている。また、研究主題に掲げる「自立」の姿として、「自分の考えをもち、自ら行動する」ことを目標にしている。本主題「正直、誠実」は、偽りなく真面目に真心を込めて、明るく楽しく生活するために重要な道徳的価値である。本校の学校教育目標につながる内容項目として、この授業で指導する。

(2) 子どもたちの実態

本学級の児童は、誠実に生活していくことの大切さについて、知識としてはおおむね理解している。一方で、自分が過ちを犯してしまったときに、ごまかしてその場をしのごうとしたり、自分の失敗を認めることができなかつたりする児童もいる。高学年になり、周りにどのように見られるのか、どのように思われるかを気にすることが増え、素直に失敗を認められなかつたり、自分らしさを出し切れていなかつたりする場面もある。過ちは改めた方がいいということは分かっているものの、それを行動に移すのが難しいという場面が実生活でも見受けられる。

(3) 教材について

本教材は、友達にいたうそのために、妹に嘘をついてカードを取ろうとする主人公さやか心の動きを通して、誠実に生きることの大切さについて考えられる教材である。罪悪感に苦しむ主人公と純粹無垢な妹の姿が対比的に描かれており、児童は誠実な生き方の大切さを理解しやすい教材である。また、物語は主人公がカードを持たずに公園に向かった場面で終わっており、その後、主人公がどのように行動したのか読者に委ねられる形になっている。友達の前でも誠実な自分を貫くことができるかを考えることで、ねらいに迫ることができると思う。

(4) 指導の手だて

そこで、指導に当たっては、次の点に留意したい。

- ・ 道徳的価値について深く考えさせる発問の工夫をする。

この教材文には結末が書かれていないので、さやかが物語の後、友達とどのような会話をするかを中心的な発問にする。そして、さやかの多様な行為や判断の可能性を検討できるようにする。

終末では、これから自分が大切にしていきたい心について問うことで、具体的にどのような行動をとり、誠実に生きていくのか考えることができるようにする。

- ・ 主体的な学習を促す指導方法を工夫する。

教材文を途中で区切り事前に読ませ、内容を理解した上で、授業に臨むようにさせる。

また、さやかがこれからどのように行動するか立場を明確にして話せるように、ネームプレートを活用する。そして、主体的に道徳的価値について考えることができるようにする。

更に、道徳的行為に関する体験的な学習として、役割演技を取り入れる。問題場面で、即興的に演じたり表現したりする中で、誠実な行動をとることでどのような気持ちになるか実感を伴って理解することができるようにする。

5 準備 ネームプレート、児童用タブレット端末、挿絵、ワークシート

6 学習の展開

| | 学習活動・学習内容 | T主な発問 C予想される児童の反応 | ○教師の手だて 評価【方法】 |
|-----------------------------------|---|---|--|
| 導 入 / 展 開 | 1 本時のめあてをつかむ。 ・ 経験の想起 ・ 課題把握 | T 嘘をついたり、ごまかしたりしたときは、どのような気持ちになりますか。 C ばれないかどきどきしました。 C 嘘をついている相手に申し訳ないと思いました。 | ○ 嘘をついたり、ごまかしたりしたときの気持ちを想起し、ねらいとする道徳的価値への方向付けを図る。 ○ 嘘やごまかしは誰にでも経験があることを確認し、課題意識をもたせる。 |
| | <p>明るい気持ちで過ごすには、どのような心が大切だろうか。</p> | | |
| | 2 さやかの心の動きについて考える。 ・ 予想外の反応にどきどきするさやか ・ 東公園へ行くことを約束したさやか ・ 妹にカードを差し出されたさやか | T さやかがどきどきしていたのはなぜでしょう。 C カードの話題に入れて、すぐに予想外に注目されたから。 T さやかの心臓がドクンドクンと早くなったのは、なぜでしょう。 C 自分のカードではないのに交換の約束をしてしまって、後戻りできなくなったから。 T さやかは妹のカードを受け取ると思いますか。 C 妹のことを考えて受け取らない。 C 友達に嫌われたくないから受け取る。 C 自分がもやもやするから受け取らない。 | ○ 事前に、教材文（P 8 3 L 5まで）を印刷配布し、読ませておく。 ○ さやかがつまらない思いをしてきたことや、さやかが妹にカードを差し出されるまでの心情をおさえ、どのような思いで行動するか深く考えられるようにする。 ○ さやかが妹のカードを受け取るか、受け取らないかを問う。黒板にネームプレートを貼り、立場を明らかにすることで、児童が主体的に、この後のさやかの行動を考えられるようにする。 |
| | 3 役割演技をしながら友達とさやかについて考える。 ・ さやかが自分の行動を決めた理由 ・ 誠実に行動を改めたさやかの心 | T ☆さやかは、これから友達とどのような会話をするのでしょうか。 C 実はあのカードは、妹のカードだから、持ってこられなかったんだ。 C カードは持ってきたけど妹のものだから交換はできないんだ。 C 交換してしまったら、妹にも悪いし、自分がもやもやして気持ちよく過ごすことができない。 C 友達に本当のことを言った方がすっきりする。 | ○ タブレット端末で役割演技の内容を録画・共有し、演技の内容についてさらに問うことで、さやかの気持ちに迫ることができるようにする。 ○ 役割演技をして意見を交流し合った後、教材文の続き（P 8 3 L 5～）を読ませる。 ○ 妹のカードを受け取らなかったさやかの涙の理由を問うことで、自分自身に誠実であることを選んださやかの心を考えることが出来るようにする。 |

| | | | |
|-----------|--|--|---|
| <p>終末</p> | <p>4 これから自分が明るい気持ちで過ごすために、どのような心が大切か、ノートに振り返りを記入する。</p> <p>・ 誠実に明るい心で生活するために大切にしたいこと</p> | <p>T 今日の学習から、明るい気持ちで過ごすために大切な心をノートに書きましょう。</p> <p>C 正直な心が必要だと思います。もし自分が間違っていたら、正直に相手に言おうと思います。</p> <p>C 間違ってしまったら反省して次の行動を決めることが大切です。</p> <p>C 相手だけでなく自分自身にも誠実に生きることで、明るく過ごすことができます。</p> | <p>○ これから大切にしたい心を考えさせると共に、どのような場面でその心を生かすことができそうか、具体的に考えさせる。</p> <p>静 さやか(姉)の行動の理由を考え、これからの自分が大切にしたい心について考えている。</p> <p>【ワークシート】</p> |
|-----------|--|--|---|

※ ☆印は中心的な発問

7 板書計画

これから大切にしたい心

間違ったことがあれば正直に話す。

自分に正直な心。

東公園での会話

「妹のカードだから交換はできない。」

帰ってから妹に本当のことを言う。

「妹のカードだから持つてこれれなかつた。」

本当のことを言わないとすつきりしない。

受け取らない

受け取る

友達にきらわれたくない。

友達に見せるだけにする。

妹がかわいそう。

自分がかもやする。

さやか(姉) あい(妹)

美砂 風香 (友達)

挿絵

妹のカード

めあて

明るい気持ちで過ごすには、どのような心が大切だろうか。

第1学年 道徳科学習指導案

- 1 **主題名** ともだちの きもちを おもう ころ [B 友情, 信頼]
 2 **教材名** 「二わのことり」(出典:光文書院「しょうがく どうとく」)
 3 **ねらい** みそさざいややまがらなどの気持ちを考え、話し合う活動を通して、相手の気持ちを考えて仲良くすることのよさや、行動に移すことができた時の自分と相手の喜びに気づき、友達とよりよく過ごすために行動しようとする道徳的心情を育てる。

4 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

友達は家族以外で特に深い関わりをもつ存在であり、友達関係は共に学んだり遊んだりすることを通して、互いに影響し合って構築されるものである。また、世代が同じもの同士として、似たような体験や共通の興味や関心を有することから、互いの考えを交え、豊かに生きる上での大切な存在として、互いの成長とともにその影響力を拡大させていく。

児童にとって、友達関係は最も重要な人間関係の一つであり、友達関係の状況によって学校生活が充実するか否かが方向付けられることも少なくない。

1年生では、幼児期の自己中心性から十分に脱しておらず、友達の立場を考え、理解することが難しい児童も多い。しかし、学級での生活を共にしながら一緒に勉強したり、仲良く遊んだり、困っている友達のことを心配し助け合ったりする経験を積み重ねることで、友達のよさをより強く感じるようになる。そのため、友達と一緒に活動して楽しかったことや友達と助け合っよかったことを想起させながら、友達とよりよく過ごすためにどうすればよいかを考えていきたい。

(2) 児童のこれまでの学習状況や実態と教師の願い

児童は、入学当初からさまざまな学習や遊びの活動を通して、友達と一緒に過ごす楽しさを感じてきている。ただ、自分の思いを通そうとするあまり、強い言い方になってしまったり、相手を振り回してしまったりし、けんかになってしまうことが少なくない。また、どうすればよいかを知っているにもかかわらず行動に移すことができない児童がいる。この教材を通して、相手の気持ちを考えて仲良くすることのよさや、行動に移すことができた時の自分と相手の喜びを知り、実践意欲を高めたい。

(3) 使用する教材の特徴や具体的な活用方法

この教材には、みそさざい、やまがら、うぐいす、小鳥たちが登場する。4者は友達である。しかし、その友達関係には多少の差異が見られる。

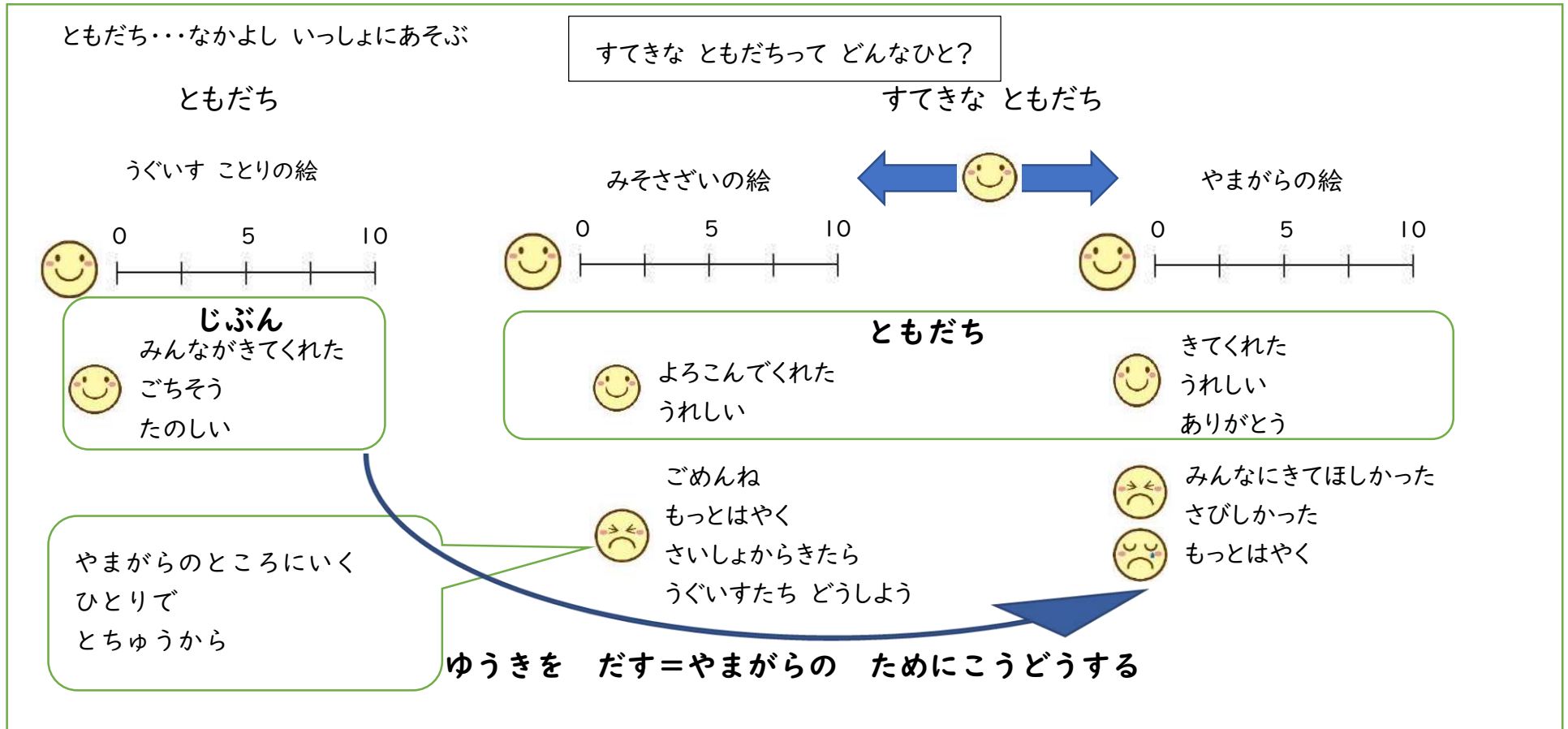
自分達の気持ちだけを考え自己中心的なうぐいすと小鳥は、今の児童の実態にあてはまる。一方みそさざいは、やまがらの気持ちを考え、たった一人で行動に移す。そして、やまがらも、みそさざいの優しい気持ちにふれて涙を流して喜ぶ。それらの関係を比較することで、みそさざいとやまがらの友達関係のすばらしさを感じ、自分も友達の気持ちを考え、助けられる人になりたいという意欲を高めたい。

5 本時案

| 学習活動 | 主な発問と予想される反応 | 指導上の留意点 ※評価 (評価方法) |
|--------------------------|---|---|
| 1 友達とは何かを考える。 (導入) | ○友達とはどんな人でしょう。 ・一緒に遊ぶ人 ・仲良しな人 | ・「友達」からレベルアップすると「すてきな友達」になることを伝えることで、本時の学習の方向付けをする。 |
| めあて すてきなともだちって どんな人? | | |
| 2 すてきな友達について考える。 (展開) | ○みんなならどちらに行きますか。 ・1年に1回しかないお誕生日会に行く。 | |

| | | |
|-------------------------------------|---|--|
| <p>(1) 教材「二わのことり」の範読を聞く。</p> | <p>○うぐいす・小鳥たちと、みそさざい・やまがら、どちらがすてきな友達だと思いますか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みそさざいとやまがら。 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童から出されたキーワードである「一緒に遊ぶ」「仲良し」という言葉を使い、うぐいす達も仲良く遊んでいるのではないかと揺さぶる。 ・この時点で、簡単にその理由を問うことで、学習後と比較したい。 |
| <p>(2) 誰がどれくらい「いい気持ち」になったかを考える。</p> | <p>◎「にっこり顔」になったのは、誰ですか。どれくらい「にっこり顔」になったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4羽、みんな10。 ・みそさざいは、5くらい。 <p>うぐいす・小鳥</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなが来てくれて嬉しいよ。 ・ごちそうがあって楽しいよ。 <p>みそさざい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やまがらに喜んでもらえたよ。 ・よかったね。 ・でも「もっと早く来ればよかった」って思っているかも。 ・「ごめん」って気持ちもあるよ。 ・みんなで来たらよかったかな。 <p>やまがら</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来てくれてありがとう。 ・ひとりぼっちじゃなくなって、よかった。 ・もっとたくさんの鳥に来てほしかったのではないかな。 ・一人で待っているのは、寂しかったよ。 ・みんなに招待状を出したのに。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ロイロノートを使って「にっこり」度合いをスケールで書かせることで、自分の考えを明確にさせる。 ・児童が記入したスケールを電子黒板に表示することで、全員の考えを共有できるようにする。 ・一人ひとりの思いや理由が違うので、その時の表情を確認し、表情絵に表すことで、心情を理解させる。 ・板書で「にっこり顔」になっている理由が「自分のことを考えている」、「相手のことを考えている」という違いをおさえる。 |
| <p>(3) すてきなところを考える。</p> | <p>◎うぐいす・ことり、みそさざい、やまがらのすてきなところはどこですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みそさざいは、途中でやまがらのところに行ったよ。 ・みそさざいはやまがらのためにひとりで行ってかっこいい。 ・みそさざいは、ひとりぼっちのやまがらの気持ちが分かったんだよ。 ・やまがらは「ありがとう」って言ったよ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・挿絵をもとに簡単に話の流れをおさえることで、みそさざいの相手を思った行動に気付かせたい。 ・3択にすることで、みそさざいの行動に注目させるように配慮したい。 (ワークシート) |
| <p>3 今までの自分を振り返る。 (終末)</p> | <p>○今までの自分はどうでしたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・けがをしたときに、保健室まで連れて行ってくれた友達がいて、嬉しかった。 ・牛乳がこぼれたときに、拭くのを手伝ったら、喜んでくれた。 ・嫌なことを言われている友達を助けてあげることができなかったから、今度は助けたい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童が考えた「すてきな友達」の視点で考えさせることで、今までの自分を振り返らせたい。 (ワークシート) ※「すてきな友達」になるために大切なことは何かを考えることができたか。 (発表・ワークシート) |

板書計画



第2学年 道徳科学習指導案

- 1 **主題名** ともだちをおもうころ [B 友情, 信頼]
 2 **教材名** 「モムンとヘーテ」(出典: 光文書院「小学どうとく」)
 3 **ねらい** モムンとヘーテの気持ちの変化について話し合う活動を通して, 友達同士で対立したり自分勝手な行動をしたりすることがあっても, 友達を助けようとする気持ちがあることに気付き, 互いに支え合うことで友達との関係を深めていこうとする道徳的心情を育てる。

4 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

本時で扱う内容項目は, 友達関係において基本とすべきことであり, 友達との間に信頼と切磋琢磨の精神をもつことに関するものである。

友達は家族以外で特に深い関わりをもつ存在であり, 友達関係は共に学んだり遊んだりすることを通して, 互いに影響し合って構築されるものである。児童にとって, 友達関係は最も重要な人間関係の一つであり, 友達関係の状況によって学校生活が充実するか否かが方向付けられることも少なくない。

2年生という段階においては, 幼児期の自己中心性から十分に脱しておらず, 友達の立場を理解したり自分と異なる考えを受け入れたりすることが難しいこともある。しかし, 学級での生活を共にしながら一緒に勉強したり, 仲良く遊んだり, 困っている友達を心配し助け合ったりする経験を積み重ねることで, 友達のよさを強く感じるようになる。友達と一緒に活動して楽しかったことや友達と助け合ってよかったことを考えさせながら, 友達と仲良くする大切さに気付かせたい。

(2) 児童のこれまでの学習状況や実態と教師の願い

児童の多くは, 休み時間になると友達を誘い合って仲良く遊ぶ姿が見られる。友達と仲良く遊ぶことは, 楽しいと思っているし, 仲良く遊びたいと思っている。これまでに, 同じ内容項目である教材「およげないりすさん」を通して, 自他の違いを理解し, 互いを認め合い, 仲良く助け合って活動することの大切さについて学んできた。帰りの会の「今日のピカッとさん」のコーナーでは, 自分以外の友達の素敵な行いについてたくさん発表する姿も見られるようになり, 友達のよさに気付けるようになってきている。しかし, まだ自己中心的な傾向が強いいため, 相手の気持ちを考えることなく自分の気持ちを優先させてしまい, けんかになる姿が見られることがある。

この教材を通して, 友達同士で対立したり, けんかしたりしても, 謝ったり許したりすることで友達関係がより深まることを理解できるようにしたい。

(3) 使用する教材の特徴や具体的な活用方法

この教材には, モムンとヘーテという森の中に住んでいるうずら豆くらいの小さな小人が登場する。一緒に取り出した栗の実をめぐって関係が悪化するが, 大雨という危険な状況の中, 相手を思い合うことで関係が改善し, さらに友情が深まっていくという内容になっている。意地悪をされても, 許そうという思いに行きつくまでのモムンの心の葛藤や, ヘーテの自分の行き過ぎた行動を反省する気持ち, モムンのことを気遣う言動にも考慮しながら, 二人の心情を押さえていくことで, ねらいに迫っていきたい。

5 本時案

| 学習活動 | 主な発問と予想される反応 | 指導上の留意点 ※評価 (評価方法) |
|--|---|--|
| 1 仲良しの友達とは, どんな友達なのか考える。 ＜導入＞ | ○仲良しの友達とはどんな人だと思えますか。 ・一緒に遊んでくれる友達。 ・遊びに誘ってくれる友達。 | ・仲良しの友達のイメージを膨らませ, 本時の学習の方向付けをする。 |
| めあて ともだちとなかよくするために大切なことはどんなことだろうか。 | | |
| 2 友達と仲良くするために大切なことについて考える。 ＜展開＞ (1) 教材「モムンとヘーテ」の範読を聞く。 | ○モムンとヘーテは仲良しなのでしょうか。 ・最初はけんかしたけど, 仲良くなった。 | ・範読の前に登場人物を紹介し, 二人は仲良しなのかを考えながら聞くようにさせる。 |

| | | |
|---|---|--|
| <p>(2) モムンの心の葛藤を話し合う。</p> | <p>栗の実をヘーテに独占されるモムンの場面</p> <p>(仲良しではない)</p> <p>ヘーテ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分勝手。 ・モムンのことを考えていない。 <p>モムン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・悲しい。 ・何も言えない。 <p>大雨の中、木の根元で身をよせるモムンとヘーテの場面</p> <p>(仲良くするか迷っている)</p> <p>ヘーテ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が悪かったことを反省している。「ごめんね。」 ・モムンだけは、逃げて助かってほしい。「きみは、逃げていくほうがいいよ。」 <p>モムン</p> <p>◎木の根元でだまっていたモムンは、どんなことを考えているのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヘーテを許そうかどうか迷っている。 <p>【許す】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のことを考えてくれているから許そう。 ・謝ってくれたから許そう。 ・二人でこのままいても命が危ない。 <p>【迷う】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・酷いことされたから許したくないけど、謝ってくれたからどうしようかな。 <p>【許せない】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栗の実のことは許せない。 ・嫌だったけど何も言わなかっただけだよ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・仲良しではない所はどこなのか問うことで、仲良しになるために大切なことに気付かせる。 ・モムンとヘーテの考えや気持ちがわかるように吹き出しの色や矢印の色を変える。 モムン→赤 ヘーテ→青 ・ヘーテの自分の行き過ぎた行動を反省する気持ちや、モムンのことを気遣う言動を児童の発言を生かしながら確認することで、過ちに気付かせるようにする。 ・自分がモムンならどうするのか問うことで、自分事として考えられるようにする。 (ワークシート・発言) |
| <p>(3) 始めと終わりとは、二人は、どう変わったのか話し合う。</p> <p>3 本時の学習を振り返る。 <終末></p> | <p>荷物を捨てて一緒に皮の船で逃げるモムンとヘーテ</p> <p>(仲良し)</p> <p>◎木の根元の黙ったままのモムンから「一緒に逃げよう。」と言ったモムンは何がかわったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手を許すことができた。 ・やっぱりヘーテが大事。 ・友達だから助けたい。 <p>◎始めと終わりとは、二人は、何が変わったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達のことを思い合うことができた。 ・助け合うことができた。 ・友達を許すことができた。 ・自分がいけなかった時、謝ることができた。 <p>◎今日の学習についてふり返りましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達とけんかしたとき、嫌なこともあるけど、友達のことも考えることが大切だとわかった。(新しい考えを発見!) ・今まで、嫌なことがあったら、その人のことを嫌いになっていただけで、仲直りして気持ちよく生活していきたいと思った。(今までの自分とくらべたよ) ・自分も友達に嫌なことをすることがあったり言ったりすることがあったので、その時にはちゃんと謝りたい。(これから生かしたい!) | <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ一緒に逃げようと言ったのか考えさせることで、モムンの気持ちの変化をとらえさせる。 ・最初の「一緒に栗を切る行動」と最後の「一緒に逃げる行動」はどちらが仲良しかを問うことで、何が違うのかを考えられるようにする。 ・友達と仲良くなるために大切なことは何か、振り返りの3つの視点を提示し、ワークシートに書かせる。 ※評価 友達と仲良くするためには、どんなことが大切なのか自分なりに考えることができたか。 (ワークシート・発表) |

板書計画

モムンとヘーテ

なかよしのもとだちとはどんな人？

- ・いっしょに
- ・たすけあう
- ・あそびにさそう

ともだちとなかよくするために大切なことはなんだろう。

なかよし



一緒に栗を切る
場面挿絵

いっしょに
くりのみ
を切る。

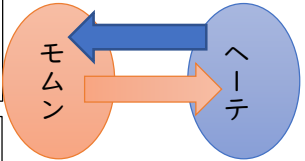
相手をゆるす

やっぱりヘーテが大事
友達だからたすけたい

一緒に皮の船で逃
げる場面挿絵



「いっしょにげよう。」



あいてのことを
思い合っている

スツキリ

ゆるす

ゆるせない

モヤモヤ

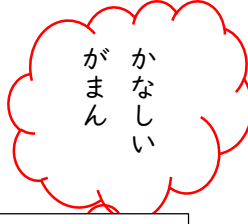
大雨の中、木の根
元で身をよせる
場面挿絵



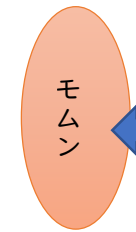
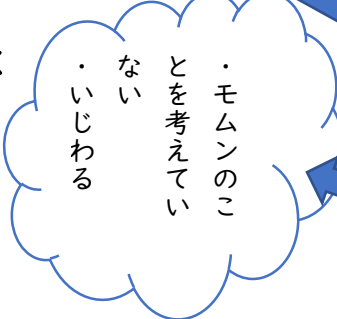
「ごめんね。」
「きみは、にげてい
くほうがいいよ。」

モムンを
たすけたい

こうかい
はんせい



栗の実をヘーテに
独占される
場面挿絵



気もちが少し近づく

気もちがバラバラ



なかよし

ともだちのことを思い合う。たすけ合う。
ともだちをゆるすことができる。
じぶんがいけなかった時にはあやまる。

まよっている

・じぶんのことを考えてくれているから。
・あやまってくれたからゆるす。
・二人でこのままここには、いられない。

まよっている

・くりのみのことはゆるせない。
・ひどいことをされた。
・いつもがまんしてきた。

- 1 **主題名** 広い心で [B 相互理解, 寛容]
- 2 **教材名** 「わたしだって」(出典:光文書院「小学どうとく」)
- 3 **ねらい** お姉さんの行為に対するけい子の思いを考える活動を通して、失敗は誰にでもあることや許す行為は良好な人間関係を築く上で大切であることに気づき、広い心で友達に接しようとする道徳的心情を育てる。

4 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

相互理解、寛容は、自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切に関することに関するものである。「寛容」とは、心を広くして相手の言動を受け入れること、相手の過ちや欠点を厳しく責めたり非難したりしないことである。お互い様という言葉もあるように、失敗は誰にでもあり、自分の不完全性を自覚して謙虚であることが寛容の心につながると考える。しかし、中学年時期の児童は、自分との違いを受け止められずに感情的になったり、それらの違いから対立が生じたりすることも少なくない。そのため、相手の立場や気持ちを考え関わり合う「相互理解」の心が重要となってくる。以上のことから、「相互理解、寛容」の道徳的価値には、失敗した相手だけでなく、自分の安心感や幸福感にもつながること、結果的に望ましい人間関係を築くことにつながるということとよさがあると考えられる。

(2) 児童のこれまでの学習状況や実態と教師の願い

児童は、同じ内容項目の教材「ドンマイ! ドンマイ!」「言葉のキャッチボール」で、相手を理解することの大切さや感じのよい伝え方の体験などを通して、相手の立場になって考え行動すると、相手も自分も気持ちがよいことを学んだ。しかし、実態として、過ぎた言葉で相手を責める、自分の非を認められない、問題行動だけとらえて相手を注意してしまうという姿がまだ見かけられる。そこで、本時の授業を通して、自分の行為や言動を振り返り、望ましいコミュニケーションをとることができるようになってほしいと願う。

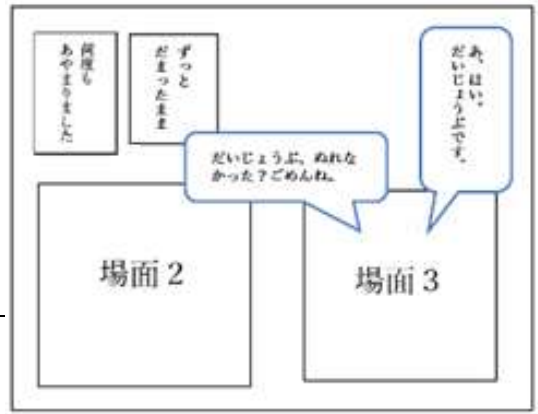
(3) 使用する教材の特徴や具体的な活用方法

本教材では、主人公のけい子が謝罪する側とされる側の両方の立場を経験する。また扱われる失敗も不注意が原因で、児童にとっては身近なものである。よって、児童にとっては自分の失敗を許してもらえたときの安心感など心情的に共感しやすい。また、立場が逆転する場面では、相手の立場になって考えようとする見方に気づきやすく、自分事としてとらえやすい。そこで、お姉さんの行動について、けい子がどう思ったかを考えることを通して、謝罪する修や謝罪をなかなか認められないけい子の心情、お姉さんの許す行為の奥にある心のありさまなど、道徳的価値に迫っていきたい。また、クラスメートの気持ちに注目した発言が出れば、自分の気持ちを伝える大切さについても触れていきたい。

5 本時案

| 学習活動 | 主な発問と予想される反応 | 指導上の留意点 ※評価 (評価方法) |
|---|---|---|
| <p>1 広い心についてイメージし、発表する。 ＜導入＞</p> | <p>○広い心ってどんなイメージがありますか。広い心の人って、どんなことができると思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・優しい。 ・助けてくれる。 ・失敗しても許してくれる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童の言葉を生かして、発言内容を簡単にまとめる。 |
| <p>めあて 広い心について考えよう。</p> | | |
| <p>2 教材「わたしだって」を読み、広い心について、考え話し合う。 ＜展開＞</p> <p>(1) 場面の確認をする。</p> <p>(2) お姉さんの言動について考える。</p> <p>(3) 広い心は、どんな心か考える。</p> | <p>○このお話の中で、心が広いと思った人は誰ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お姉さん。悪くないのに、先に謝っているから。 <p>◎ほほえんだお姉さんの姿を見て、けい子はどんなことを考えたでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・悪くないのに、自分から謝ってきたお姉さんはすごい。 ・悪くないのに、お姉さんはなぜあやまってきたのかな。 ・許してくれてほっとした。 ・修君にいいよって、私は言えなかったのに、お姉さんはえらいな。 ・修君を許してあげればよかった。 <p>○いろいろあったお姉さんの素敵な心や行動、どれを自分に取り入れたいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わざとじゃなかったら許す。 ・お姉さんみたいに周りの人に優しくしたい。 ・友達を許せる人になりたい。そうすれば、けんかしなくなる。 ・仲よくして、友達を増やしたい。 ・相手の立場を考えたい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・場面絵を使って、短時間であらすじを確認する。電子黒板には、比較しやすいよう場面②と③を提示しておく。 ・場面②で、自分ならどうするか自分事として考えさせる。 ・お姉さんの表情や言動を手がかりに、行動の奥にある心について考えさせる。(ワークシート) ・意見交流のため、ペアトークをしたり、他の友達のワークシートを見て回ったりする。 ・児童の発言を、ベン図を用いてまとめていく。 ・挙手による発表が少ないとき、他の児童と交流した際の感想をもとに、児童に指名させる。 ・児童の発言をもとに、広い心で接することの大切さやそのよさをまとめていく。 |
| <p>3 本時の振り返りをし、交流する。 ＜終末＞</p> | <p>○今日の学習の振り返りをしましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広い心は、自分より相手のことを心配することだと分かった。(新しい考えを発見！) ・今までは許せなかったことも、おあいこって思ったら、友達を許せそう。(今までの自分と比べたよ) ・わざとではなかったら、今度から相手を許そうと思う。(これから生かしたい！) | <ul style="list-style-type: none"> ・板書を用いて簡単に振り返り、授業の流れを思い出させる。 ・3つの振り返りの視点について挙手させ、道徳的価値が深まったか確認する。 ※広い心で接することのよさを考えることができたか。(ワークシート) |

電子黒板→



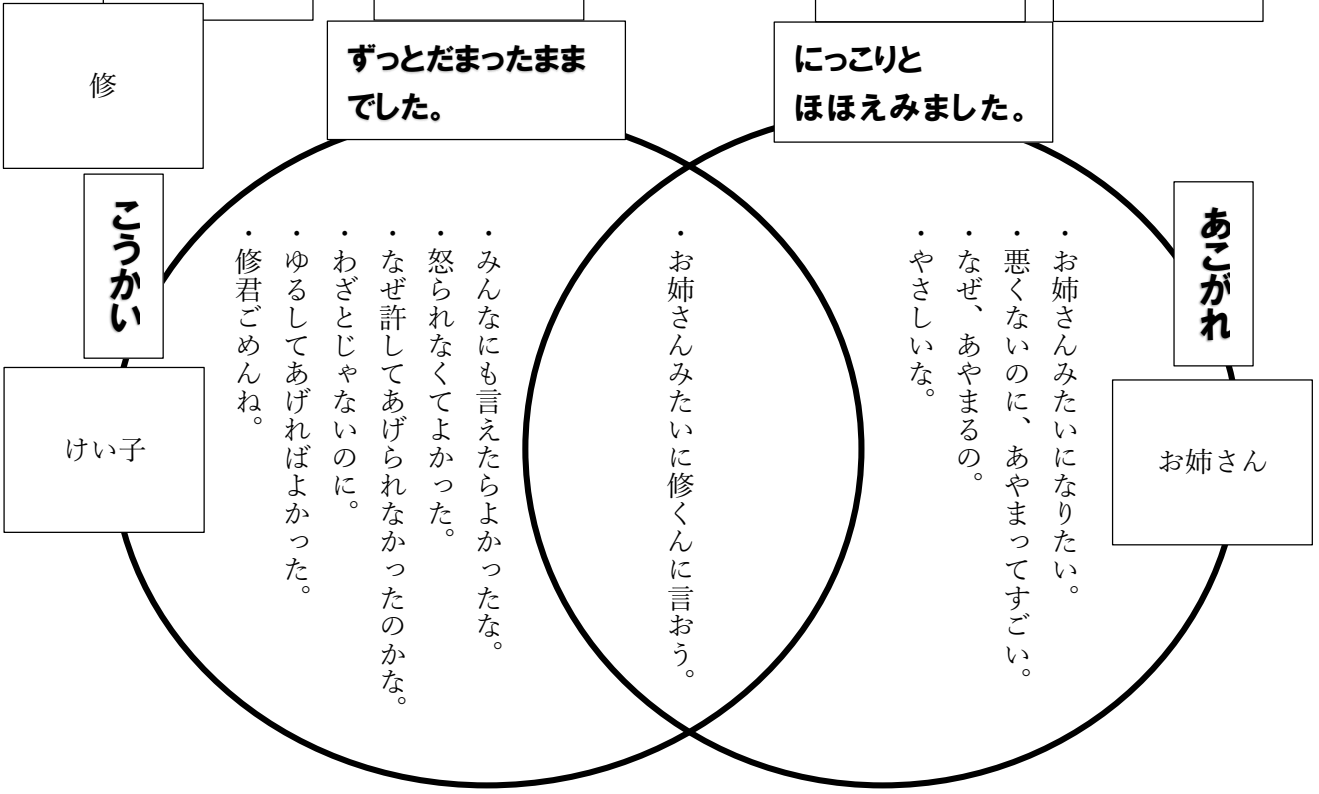
板書計画↓

広い心について考えよう。

- ・優しい人。
- ・親切。
- ・失敗してもゆるしてくれる。

- ・わざとじゃない。→ ゆるす。
- ・おあいこ。→
- ・まわりにやさしく →
- ・もっとなかよし。→ 友達ふえる。
- ・いやな気持ちがへる。
- ・自分のことばかりじゃだめ。

相手の立場で



- 1 **主題名** 広い心をもって〔B 相互理解，寛容〕
- 2 **教材名** 「学級新聞作り」（出典：光文書院「小学どうとく」）
- 3 **ねらい** よりよいものを作りたいという思いは同じでも，考え方が異なる場合の登場人物の考え方の違いや心情について考えることを通して，相手の考えのよさを認め，足りないところを補い合うことのよさに気づき，相手の考えを大切にしながら互いの意見を伝え合っていくとする道徳的判断力を育てる。

4 主題設定の理由

（1）ねらいとする道徳的価値について

本時で扱う内容項目は，広がりと深まりのある人間関係を築くために，自分の考えを相手に伝えて相互理解を図るとともに，謙虚で広い心をもつことに関するものである。

相互理解とは相手への理解を深め，相手からの理解が得られることである。4年生の段階の児童は，自他の立場や感じ方，考え方の違いをおおむね理解できるようになるが，違いを受け止められず感情的になってしまうことがある。相互理解を図るためには，相手の言葉の裏側にある思いを知り，自分の思いを伝えることが大切である。意見の対立において，互いの考えのよさに目を向け，認め合ったり補い合ったりすることで，よりよいものが生み出される。相互理解を深めることで，さらに望ましい人間関係の構築につながると考える。

（2）児童のこれまでの学習状況や実態と教師の願い

これまで「B 相互理解，寛容」において，自分と友達との違いを認め，理解し合うことの大切さについて学んだ。児童は，人それぞれ違いをもっており，そのよさを認めることでよりよい関係になることを理解している。学習活動においては，意欲的に関わろうとする一方，意見の対立から言い争う姿も見られるようになってきた。

本教材を通して，意見の対立は避けるのではなく，よりよいものを生み出す機会と捉え，互いの意見を伝え合っていくとする道徳的判断力を育てたい。

（3）使用する教材の特徴や具体的な活用方法

新聞係としてよりよい新聞を作ろうとする「わたし」と黒羽さんは，考え方の違いにより言い争いになってしまう。「わたし」は，黒羽さんの新聞作りに対する姿勢や考えのよさに気づき，自分の行動を振り返る。「わたし」を通して，自分や相手に対する見方の変容を捉えられる教材である。本教材を通して，自分の考えには足りないところがあることや相手の考えを受け止めることの大切さに気づき，互いの考えを出し合うことのよさについて考えさせたい。

5 本時案

| 学習活動 | 主な発問と予想される反応 | 指導上の留意点 ※評価（評価方法） |
|-------------------------------|--|---|
| 1 これまで学級の友達と活動した経験を振り返る。 <導入> | ○友達と目標をもって取り組んだ活動にはどのような活動がありましたか。 ・新聞作り ・リズム作り ・実験 ・キックベース ・係活動 | ・言い争いになったことはあるかを問い，教材と同様の場面を想起できるようにする。 |

めあて よりよいものを作るために大切なことは、どのようなことだろう。

2 意見の対立について考える。 <展開>

(1) 二人の考えの違いについて考える。

◎よりよい新聞作りを目指すには、どちらの考えがよいと思いますか。

わたし **変えるときも話し合う**

- ・新聞にまとまりが出る。
- ・記事が重ならない。 ・協力できる。

黒羽さん **書くよりもインタビュー**

- ・伝わりやすい。 ・喜んでもらえる。
- ・おもしろい新聞になる。

どちらとも言えない

- ・納得できるところとそうでないところがある。

- ・登場人物の考えの違いを対比して板書し、それぞれの考えのよさや足りないところに目を向けさせる。

(2) 二人の心情について考える。

○「わたし」の心が晴れなかったのはなぜでしょう。

- ・押し通そうとした。 ・言い過ぎた。
- ・冷静に聞けばよかった。
- ・いい考えだと気付いた。
- ・黒羽さんもがんばっている。

(3) よりよいものを作るために大切なことについて考える。

○よりよいものを作るには、どのようなことが大切だと思いますか。

- ・相手の話をよく聞く。
- ・相手の考えのよいところを探す。
- ・自分の考えを伝える。
- ・足りないところを補い合う。

- ・ICT を活用し、互いの考えを共有することで、多様な考えにふれることができるようにする。

3 今日の学びについて自分の考えをまとめ。 <終末>

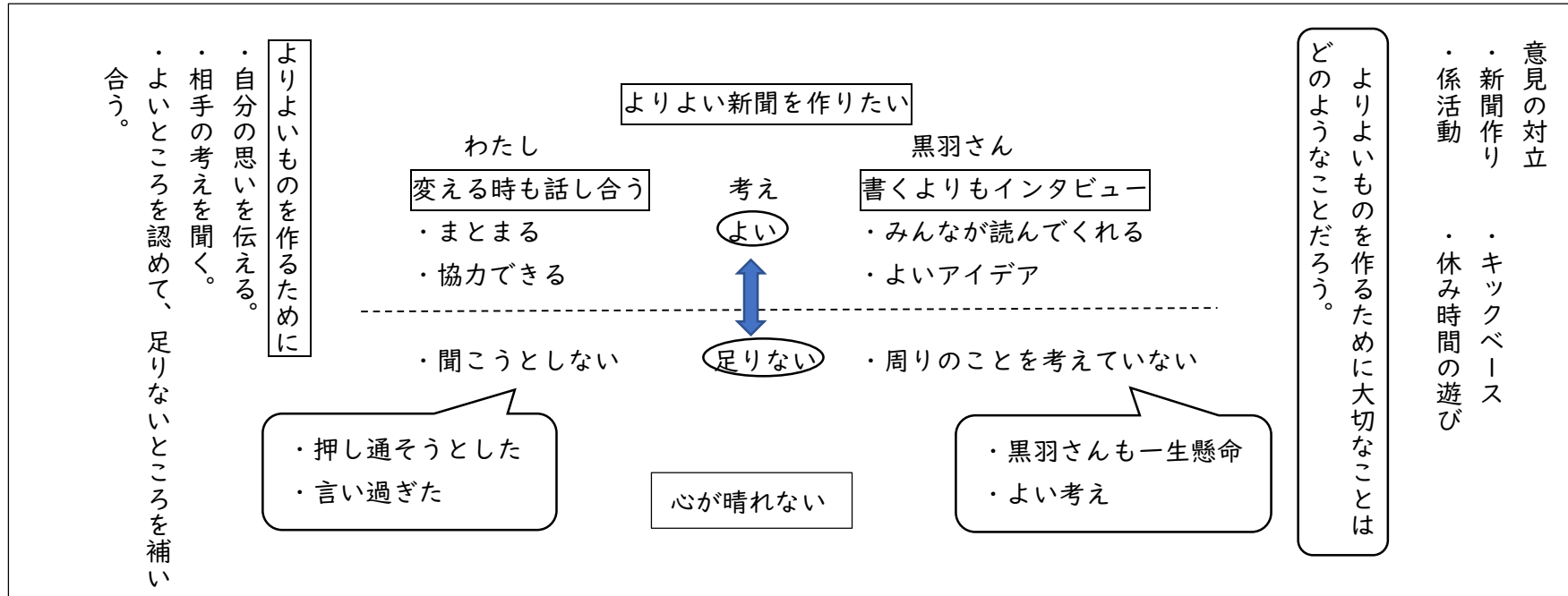
○今日の学習を振り返りましょう。

- ・自分の考えだけでなく、相手の考えをよく聞いて話し合うとよりよいものが作れると思った。(新しい考えを発見!)
- ・言い争いになると相手を責めてしまっていたけれど、相手の考えのよいところを認めた方が一緒にがんばれると思った。(今までの自分と比べたよ)
- ・グループで活動をするときには、友達とアイデアを出し合ってよりよくしていきたい。(これから生かしたい!)

- ・3つの振り返りの視点を示し、自分事として考えたり、考えを深めたりできるようにする。

※異なる意見の相手への接し方について考えることができたか。(ワークシート)

板書計画



- 1 **主題名** 寛容な心で [B 相互理解, 寛容]
- 2 **教材名** 「約束」(出典:光文書院「小学道徳」)
- 3 **ねらい** 登場人物の行動の足りないところについて考えることを通して, 自分の足りないところを認めるとともに相手の事情や気持ちを受け入れることの大切さに気づき, 広い心で自分と異なる立場を尊重しようとする道徳的判断力を育てる。

4 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

本時で扱う内容項目は, 広がりや深まりのある人間関係を築くために, 自分の考えを相手に伝えて相互理解を図るとともに, 謙虚で広い心をもつことに関するものである。

寛大な心をもって他人の過ちを許すことができるのは, 自分も過ちを犯すことがあると自覚しているからであり, 自分に対して謙虚であるからこそ他人に対して寛容になることができる。寛容な心をもつと, よりよい人間関係を築くことができる。しかし, 私たちは, 自分の立場を守るため, つい他人の失敗や過ちを一方的に非難したり, 自分と異なる意見や立場を受け入れようとしなかったりするなど, 自己本位に陥りやすい弱さをもっている。寛容とは, 相手の行動や気持ちを受け入れることだと考える。自分自身が成長の途上にあり, 至らなさをもっていることなどを考え, 寛容な心をもつことの大切さに気付かせたい。

(2) 児童のこれまでの学習状況や実態と教師の願い

これまで児童は, 「相互理解, 寛容」について, 2つの教材で学習してきた。

教材「まかせてみようよ」では, 謙虚な心を持ち, 広い心で自分と異なる考えや立場を認め, 尊重していこうとする相互理解の大切さについて考えた。教材「みんなの劇」では, よりよいものを作り上げるため, 自分の考えや意見を相手に伝え, 自分と異なる考えや立場を認めて尊重していこうとする広い心で認め合うことのよさについて考えてきた。

しかし, 学校生活の児童の実態は, 自分本位に物事を考えたり自己主張が強かったりするなど, 友達のことで考えが及ばずにトラブルになってしまうことがある。また, 過去の出来事をいつまでも許すことのできない児童もおり, 広い心をもって考えたり行動したりすることに関しては未だ不十分であるといえる。

この教材を通して, 自分本位に物事を考えるのではなく相手の立場に立って考えることの大切さや, よりよい人間関係を築いて維持するためには広い心が必要であることを学ばせたい。

(3) 使用する教材の特徴や具体的な活用方法

本教材は, やむを得ない事情で約束を破った結衣と, 約束を破られた陽菜の話である。

陽菜と結衣に起きた約束をめぐる出来事は, 児童にとって身近なものである。約束を破られた陽菜が感情的になってしまう場面は, 心情的に共感しやすい。しかし, 不安を感じたり嫌な思いをしたりしても, 相手のことを考えて広い心で許した結衣のような行動はなかなかできない。自分の非を認めて一生懸命に謝った陽菜のような行動も同じである。互いに許し合えた理由を考えることを通して, 自分の行動を振り返り, 相手の立場に立って行動する大切さに気付かせたい。

5 本時案

| 学習活動 | 主な発問と予想される反応 | 指導上の留意点 ※評価（評価方法） |
|--|--|---|
| <p>1 教材のあらすじを聞き、約束でうまくいかなかった経験を想起させる。 <導入></p> | <p>○約束の日当日になっても結衣は来ません。結衣をどう思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひどいなあ。 ・約束を破るなんて許せない。 | <ul style="list-style-type: none"> ・あらすじ紹介をあえて途中で止めることで、児童の考えをゆさぶるきっかけとする。 |
| <p>めあて 許すために必要なことは何だろう。</p> | | |
| <p>2 教材「約束」を読み、「広い心」について考える。 <展開></p> <p>(1) 二人の行動の問題点について考える。</p> <p>(2) 互いに許し合えた理由について考える。</p> | <p>○この話の問題点は何でしょう。</p> <p>陽菜</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SNSに投稿した。 ・他の人を巻き込んだ。 ・自分のことしか考えなかった。 ・相手のことを考えなかった。 <p>結衣</p> <ul style="list-style-type: none"> ・約束を破った。 ・事情を言わなかった。 ・連絡をしなかった。 <p>◎互いに許し合うことができたのはどうしてだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の足りなかったところを認めたから。 ・相手の事情や気持ちを考えたから。 ・互いに大切に思っているから。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用して、友達の様々な考えを提示し、自他の考えを比較することで自分の考えを多面的多角的に見直したり、深めたりすることができるようにする。 ・電子黒板に表示することで、児童の考えを共有できるようにする。 ・互いに許した理由について考え、記入させる。(ワークシート) ・謝ることで何が伝わったかを考えさせることで、「思いやり」や「相手の立場に立つ」という視点をもたせる。 |
| <p>3 本時の学習を振り返る。 <終末></p> | <p>○今日の学習で考えたことをまとめましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広い心をもつと、もっと仲良くなれると思った。(新しい考えを発見！) ・すぐ怒っていたけど広い心で許したいな。(今までの自分と比べたよ) ・相手の気持ちを受け取りたいな。(これから生かしたい！) | <ul style="list-style-type: none"> ・3つの視点を与えることで、自分の考えを深められるようにする。 ※許すために必要なことについて、考えることができたか。(ワークシート・発言) |

約束

許すために必要なことは何だろう。

問題点

- ・ SNS に書いた。
- ・ すぐに怒った。

- ・ 自分の気持ちで行動した。
- ・ 相手のことを考えなかった。
- ・ 他人をまきこんだ。
- ・ 怒って話を聞かなかった。
- ・ がんこで、自分の考えをまげなかった。

陽菜
絵

結衣
絵

- ・ 約束を破った。
- ・ 事情をすぐに言わなかった。
- ・ 早く伝えればよかった。

場面絵

- ・ 自分の足りなかったところを認める。
- ・ 相手の事情や気持ちを考える。
- ・ お互いに大切に思う。

- 1 **主題名** 正しいと思ったことを [C 公正, 公平, 社会正義]
 2 **教材名** 「森川君のうわさ」(出典: 光文書院「小学道徳」)
 3 **ねらい** 傍観者の視点で問題の原因や解決策を考える活動を通して, 傍観者にも責任があることを知るとともに正義を実現することの大切さに気付き, 周囲に流されず自分で考え正しく行動していこうとする道徳的判断力を育てる。

4 **主題設定の理由**

(1) **ねらいとする道徳的価値について**

本時で扱う内容項目は, 「誰に対しても差別をすることや偏見をもつことなく, 公正, 公平な態度で接し, 正義の実現に努めること」に関するものである。「公正, 公平」とは, 私心にとらわれず誰にも分け隔てなく接し, 偏ったものの見方や考え方を避けるよう努めることである。また, 社会正義を実現するためには, その社会を構成する人々が真実を見極める社会的な認識能力を高め, 思いやりなどの心を育むようにすることが基本にならなければならない。

社会正義の実現を妨げるものに, 人々の差別や偏見がある。人間は, 多数ではない立場や意見に対して偏った見方をしたり, 自分よりも弱い存在があることで優越感を抱きたいがために偏った接し方をしたりする弱さをもっている。そのような人間の弱さを乗り越えて差別や偏見のない社会を実現するためには, 自らが正義を愛する心を育むことが不可欠である。自分自身の考えをしっかりと持ち, 周囲の雰囲気や人間関係に流されず, 自分で正しく判断し行動することの大切さに気付かせたい。

(2) **児童のこれまでの学習状況や実態と教師の願い**

児童の多くは, 差別や偏見がいじめなどの問題につながることや, いじめは許されない行為だということは理解している。一方で, いじめなどの問題に気付いても, 多数に同調したり, 傍観的な立場で問題から目を背けたりしてしまうことも少なくない。実際, 本学級の児童に「いけないことをしている友達に注意するか」という質問をしたところ, 30人中14人が「注意するのは難しい」と回答した。「注意すると嫌われるのではないか」「相手に受け止めてもらえるか不安」など, 間違っていると思うことに対し, どのように行動すればよいか判断できずにいる児童も少なくない。この教材を通して, 集団の問題は自分自身の問題でもあるという意識をもち, よりよい集団や社会正義の実現に向けて, 周囲に流されず自分で考え正しく行動していこうとする道徳的判断力を育てたい。

(3) **使用する教材の特徴や具体的な活用方法**

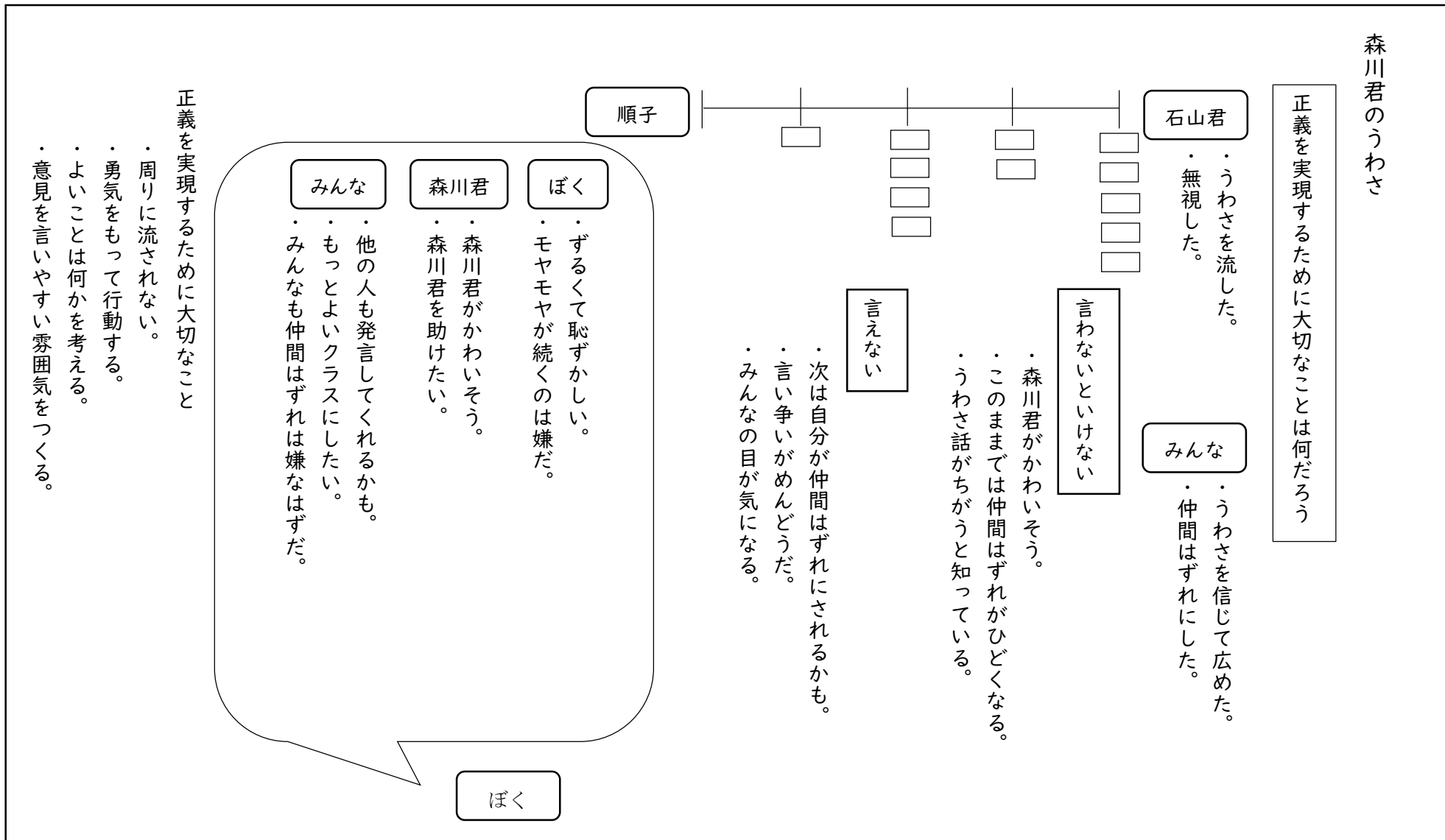
本教材は, 不確かな理由で友達から仲間はずれにされる森川君の様子を周りで見ていて「おかしい」と思いながらも発言することができない「ぼく」を主人公とした内容である。正しい行動をしなければならぬと分かっているにもかかわらず, なかなか行動に移すことができずに葛藤する「ぼく」に共感する児童は多いだろう。周囲に流され傍観していた「ぼく」が, 順子さんの発言をきっかけに勇気をもって行動しようと思えるようになっていく心情をていねいにおさえることで, ねらいに迫ることができる教材である。

5 **本時案**

| 学習活動 | 主な発問と予想される反応 | 指導上の留意点 ※評価 (評価方法) |
|------------------------------------|--|---|
| 1 「正義の実現」について想起し, 課題意識をもつ。 ＜導入＞ | ○アンケートの結果を提示する。 ・友達に注意できる。 ・友達に注意できない。 | ・これまでの経験を振り返ることで, 自分事として捉えることができるようにする。 |
| めあて 正義を実現するために大切なことは何だろう。 | | |

| | | |
|---|---|--|
| <p>2 教材「森川君のうわさ」を読み、正義の実現について話し合う。 <展開></p> <p>(1) 正しい行動をしななければならないと思っているが、行動に移すことができない「ぼく」の心の葛藤について考える。</p> <p>(2) 「ぼく」の気持ちの変化について考える。</p> <p>(3) 正義の実現に大切なことを考える。</p> | <p>○「ぼく」がとった行動は、本当によくないことなのでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うわさが違うことを知っていたのに止めなかったから悪い。 ・森川君がかawaiiそう。 ・もし言ったら次は自分も仲間はずれにされるかもしれない。自分を守るためには仕方がない。 <p>◎「ぼく」が正しい行動をとろうと決意したのは、どんな思いからでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までの自分の姿は、ずるくて恥ずかしい。(自分) ・森川君がかawaiiそうだ。助けたい。(相手) ・もっとよいクラスにしたい。みんなも仲間はずれは嫌なはずだ。(集団) <p>○正義を実現するために大切なことは何でしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周りに流されない。 ・勇気をもって行動する。 ・よいことは何かを考える。 ・発言しやすい雰囲気をつくる。 ・クラスの問題は自分の問題でもあるという意識をもつ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・範読の前に登場人物について紹介することで、関係性を捉えやすくする。 ・スケールを活用することで、自分の考えを明確にするとともに、自分とは異なる考えに気付くことができるようにする。 ・人間としての弱さがあることに目を向けさせることで、「ぼく」の心の葛藤をおさえる。 ・加害者だけでなく、傍観者にも責任があることをおさえる。 ・森川君の心情にも触れる。 <ul style="list-style-type: none"> ・「ぼく」の気持ちの変容について考える場を設ける。(ワークシート) ・児童から出た意見を、「自分」「相手」「集団」の3つの視点に分けてまとめることで、多面的・多角的に考えることができるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・正義を実現するために大切なことについて、自分の考えを短くキーワードでまとめさせる。 ・ICTを活用して友達の様々な考えを提示し、自他の考えを比較することで、自分の考えを多角的に見つめ直したり、深めたりすることができるようにする。 |
| <p>3 本時の学習を振り返る。 <終末></p> | <p>○学習を振り返りましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勇気をもって自分から行動することが大切だと思った。(新しい考えを発見！) ・これまでは、何もしていないから悪くないと思っていた。今は、自分なりに何が正しいかを考えて行動することが大切だと思う。(今までの自分と比べたよ) ・これからは、みんなが発言しやすいようなクラスの雰囲気をつくっていききたい。(これからは生かしたい！) | <ul style="list-style-type: none"> ・3つの視点を与えることで、自分の考えを深めることができるようにする。 <p>※正義の実現のために大切なことを、自分との関わりの中で考えることができたか。(ワークシート)</p> |

板書計画



第1学年

道徳科学習指導案

- 1 主題名 B(8)友情、信頼
- 2 教材名「親友」
- 3 ねらい

異性の友達と友情を育んできた生徒の物語を通して、性別等にとらわれない友情関係や信頼関係について考えさせ、友達を大切にしていこうとする心情を育てる。

4 主題設定の意図

(1) ねらいとする道徳的価値について

生徒は表面的な「友達」との関係に左右され、「友達」との間に問題が発生しやすいのが現状である。しかし、友情は悩みや葛藤を乗り越えることで培われていくものだということや、友情を培うための自分の行動のあり方を深く考えることによってできる心情であることを伝えたい。また、本資料の主人公が異性である「美咲」と親友になったのは、「美咲」の自分らしさ、人間的な魅力に引きつけられたのだということを感じさせることにより、友情は性別にとらわれないことも学ばせたい。

(2) 生徒観

入学から半年以上がたち、大多数の生徒が中学生活にもすっかり慣れて、学習や部活動に熱心に取り組んでいる。学級では積極的に発言したり、授業の実験や話し合い活動にも意欲的に取り組んだりしている生徒が多い。中学生としての規律を守り、前向きに学習しようとする態度が身に付いてきている。しかし、相手の気持ちを考えずに発言したり、自分勝手な行動をとったりすることでうまく人間関係が築けない生徒や、周囲を気にしたり安易に友達の考えに流されたりする生徒も少なくない。3つの小学校から進学してくる大規模校である本校では、自分の気持ちを素直に伝えたり、自分が正しいと思ったことを周囲に流されずにやり通したりすることには、やや消極的な場面も感じられる。

(3) 教材観

本教材「親友」は、編み物が得意な小学生だった「僕」が、周りから笑われ、顔を上げられなかったときに、同級生の「美咲」に助けられたことで2人が親友になったというエピソードから始まる。中学生になった2人は、大好きなサッカーをいっしょに楽しんでいたが、ある日、同じクラスの生徒にからかわれ、周囲の悪意のある笑い声を前にした「僕」は彼らに何も言えなくなってしまう。親友だったはずの「美咲」の毅然とした態度と対照的な「僕」の心情を考えることを通して、望ましい人間関係や信頼関係について深く考えることのできる教材である。

(4) 指導観

中学生になって、新しい人間関係が広がってきている時期であるが、自分が孤立していない状態を保つことができればよいという希薄な人間関係の中にあることに気付いていない者も少なくない。人と違うことに神経質になったり、周囲の目を気にしたりするあまり、常にいっしょに行動したり自分に無批判に同調してくれたりすることは「友達」の条件の一つであろう。指導にあたり、まず「友達」と「親友」について考えさせ、自分を見つめ、今までの経験を振り返らせたい。「僕」が「美咲」と親友になったのは「母親」の言うように美咲が自分らしく堂々と生きて

いるという人間的な魅力に引きつけられたのだということを押さえない。その上で、周囲の悪意あるからかいの言葉を浴びた「僕」の行動の意味について深く考えさせるために、話し合い活動を通して多様な意見に触れさせたい。また、物語の最後に「僕」が美咲を追って走り出した意味に気付かせ、真の友情とは、悩みや葛藤を乗り越えることで培われていくものだということや、友情を培うために自分はどうか、どうあればよいかについて、振り返りの作文を書くことで自分を見つめ、深く考えさせたい。

5 本時案

(1) 主眼

異性の友達と友情を育んできた生徒の物語を通して、性別等にとらわれない友情関係や信頼関係について考えさせ、友達を大切にしていこうとする心情を育てる。

(2) 準備物 電子黒板 ホワイトボード ペン タブレット

(3) 本時の展開

| | 学習活動・内容 | 予想される生徒の反応 | 指導上の工夫・留意点 |
|------------------------------|--|---|---|
| 視覚化 | 1 「僕」と「美咲」の絵を見て、二人の関係について考える。 〔3分〕 | 「友達」「親友」「兄弟」「恋人」など | ・電子黒板に提示された絵を見て、想像したことを発言させる。 |
| | 2 「友達」と「親友」の違いについて考える。 〔3分〕 | 「何でも話せるのが親友」「特に仲のいい人が親友」など | ・自分の考えや、今までの経験から発言させる。 |
| 【ねらい】友達を大切にしていこうとする心情を育てる。 | | | |
| 共有化 | 3 「親友」を読む。 〔5分〕 | 教師の範読や説明を真剣に聞いている。 | ・範読を行い、生徒が内容を理解しやすいようにする。 ・範読を終えた後、二人の関係性をおさえる。 |
| | 【主発問】「美咲を見つめ、その場に突っ立っていた」とき、「僕」はどんなことを思っていたのだろう。 | | |
| | 4 話し合う。 個人→グループ→全体 〔24分〕 | 「周りの目が気になったから」「美咲を追いかけた方がいいのだろうか」「美咲を追いかけては」 | ・友情関係は性別などによる違いはないことを伝える。 ・各自の意見や、話し合いをまとめるときのメモなどはホワイトボードに、まとめて班の意見としたものはタブレットに記入させる。 |
| 5 教師が説話を行う。 〔5分〕 | 教師の説話を聞くことで主発問について自分の考えを深めている。 | ・追いかけた後にどうしたと思うか、なぜそのような行動をすることができたと思うかを投げかける。 ・自分にとって親友と思える人がいるように、人から親友と思ってもらえるような人になってほしいということを伝える。 | |
| 【振り返り】「友達を大切にする、とはどういうことだろう」 | | | |
| 表現化 | 6 「友達を大切にする、とはどういうことだろう」というテーマで感想を書く。 〔10分〕 | 今の自分の学校生活の様子を振り返りながら、自分自身のこととして捉えて感想を書いている。 | ・自分の考えをしっかりと書くように伝える。 |

第2学年

道徳科学習指導案

- 1 主題名 D(22) よりよく生きる喜び
- 2 教材名 「人って、本当は？」
- 3 ねらい

孟子の「性善説」と荀子の「性悪説」を通して、自分のよりよく生きる道について考えさせ、よりよく生きていこうとする実践意欲と態度を育てる。

4 主題設定の意図

(1) ねらいとする道徳的価値について

この時期の生徒は、よりよくありたいと願う気持ちや、人のもつ気高さを追い求める気持ちが強くなる傾向がある。しかし、現在の自分を振り返れば、やらなければならないことができていなかったり、してはいけないことをしてしまったりして、自分の心の弱さが見えてしまう。そんな時期だからこそ、人間のもつ弱さや醜さ、強さや気高さに着目させ、人間という存在そのものに興味をもたせ、自分自身がこれからどう「よりよく生きる」のかを、意識できるように促していきたい。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、学習や部活動などに積極的な姿勢で取り組む生徒が多く見られる。日常生活では、お互いの言動から、どのように考えて行動していけばよいのかを学びながら、高め合おうとする雰囲気を感じられるようになってきている。しかし、自分に自信がもてずに、自分の意見や考えを発表する場面では、消極的になってしまうこともある。

(3) 教材観

本教材は2000年以上前の中国の思想家である孟子の「性善説」と、荀子の「性悪説」を基に考えさせる教材である。「性善説」は、人は皆、善の心をもっているとしている。いっぽう「性悪説」では、人間は生まれながらに悪の心をもっており、改善のためには努力の必要があると示している。両説とも、人間がよりよく生きるためには何が大切かを考えさせるものである。

(4) 指導観

人間のもつ性質について、自分の経験や、言動を振り返り、人間は誰しも、善と悪を併せもつ多面的な存在であることに気付かせる。生徒にとって、人間とはどんな存在かを考える機会は少ないと思われるが、よりよい生き方を考えるにあたり、人間はよいところも悪いところももつ複雑な存在であることを意識させることは重要である。性善説と性悪説のそれぞれについて、自分自身の経験や考えと照らし合わせながら共感や反発などの感想をもたせ、人間の心の中にある善と悪について見つめさせたい。

5 本時案

(1) 主眼

孟子の「性善説」と荀子の「性悪説」を通して、自分のよりよく生きる道について考えさせ、よりよく生きていこうとする実践意欲と態度を育てる。

(2) 準備物 電子黒板、ホワイトボード、PC、タブレット

(3) 本時の展開

| | 学習活動・内容 | 予想される生徒の反応 | 指導上の工夫・留意点 |
|-----|---|---|--|
| 焦点化 | 1 人間の心について考える。 [5分] あなたは、財布を落としてしまいました。その財布はあなたのもとに返ってくると思いますか。 | ・拾った人は困っている人のために、交番に届けてくれるだろうかから返ってくる。 ・落ちている財布を見つけても、見て見ぬふりをする人がいるかもしれないから返ってこない。 | ・ICT 機器のアンケート機能を利用し、意思表示させる。 |
| | 【ねらい】自分のよりよく生きる道について考えよう。 | | |
| 視覚化 | 2 資料を読んで考える。 [15分] | ・人間は優しい心をもっている。 ・心に悪があるのは共感できる。 | |
| | 【主発問】人間は本来、善だと思えますか。悪だと思えますか。 | | |
| 共有化 | 孟子・荀子について知る。 「性善説」「性悪説」について知る。 | ・善だと思う。 落とし物を届ける優しい心 真心からの行動 ・悪だと思う。 他人からよく思われたくて行動 意地悪や誰かを嫌う心 | ・プレゼンテーションソフトを用い、人間の心について考えた二人の人物(孟子・荀子)について紹介する。 ・「性」とは、生まれつき備わっている性質だという言葉の意味を押さえておく。 ・どちらが正しいかを決める意図ではないことに留意させる。 |
| | 【補助発問】二人の考え方が今でも取り上げられているのはなぜでしょうか。 | | |
| 表現化 | 3 話し合う。 個人→班→全体 [20分] | ・善を大切に ・悪に打ち勝つ ・心を育てる ・相手を大切に | ・相反するように見える二つの考え方だが、どちらもよりよく生きるための人としての在り方を説くものであることを意識させる。 |
| | 4 説話と振り返り[10分] | 【作文】どのように二人の考え方を生かしていけば、よりよく生きることができるだろう。 | |

第3学年

道徳科学習指導案

- 1 主題名 D(19) 生命の尊さ
- 2 教材名 「命の選択」
- 3 ねらい

祖父の意思に反して延命措置を施すことについて葛藤する家族の姿を描いた文章と、尊厳死に対する複数の立場からの新聞投稿を通して、「命の選択」の場面に遭遇した時に自分はどうのように判断するかを考え、命について多面的・多角的にとらえることより、生命を尊ぶ心情を育てる。

4 主題設定の意図

(1) ねらいとする道徳的価値について

生徒が命について、自分の感情や考えをもっとも揺さぶられるのは、命の始まりや終わりの場面やその危機に遭遇した時である。現代の生活状況から考えると、生死の実際に触れることは限られ、生死に関わる場面に遭遇した経験のある生徒はあまり多くないと思われるが、命について様々な立場から多面的・多角的に考えることは、社会の中での生き方を改めて考えられる良い機会でもある。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、落ち着いた態度で生活しており、授業にも意欲的に取り組むことができる。素直な生徒が多く、指示に対してそれを受け止めて行動しようとする生徒も多い。また、生徒は、これまで様々な場面で「生命の尊さ」について学び、「かけがえのない命」「命は大切だ」と教わってきたし知っている。生徒も問われれば、唯一無二の命について答える者が多いであろう。しかし、日常生活では、自分の思いや都合が優先され、心ない言葉で人を不快にさせてしまったり、傷つけたりするような発言も見られることがある。(命の尊さについて、自分や周りの人の立場から多面的・多角的に深く考え、他者の意見を聞きながら自己の考えを深めてほしい。)

(3) 教材観

本教材は大きく2つに分けられる。前半は、延命措置を望んでいなかった祖父に対して、病に苦しむ祖父をそのままにできなかった家族が、延命措置を行ったことに対する心の葛藤が描かれている。後半は、尊厳死を巡る賛成、反対の両立場から、同年代の中学生が自分の考えを新聞に投稿したのものになる。「尊厳死」「延命措置」について考えるとき、多様な意見が出てきて、命について多面的・多角的に考えを深めることが期待できる教材である。さらに本教材は「他者の生死に関わる選択をする」という、今までにない側面から命について考えるものであり、答えのない課題に対して「自分が家族の立場なら、どのような選択をするか」と考えるほどに迷い、熟慮が期待できる。

(4) 指導観

身近な人が亡くなるという経験のない生徒の場合、尊厳死を自分の問題として深くとらえ、考えることが難しいかもしれない。授業内で「他者の生死に関わる選択をする」が、表面的な選択にならないように、様々な立場にたって考え、他者の考えを知りながら自分の考えを整理・深化させて、「(現時点での自分の) 答え」をしっかりと持たせたい。そこで、本時ではまず導入と尊厳死に対する自分の考えを出させることから、全員がこの課題に取り組もうとする雰囲気と流れを生み出した。その上で他者の生死に関わる選択をするという答えのない課題に取り組ませ、班討論・全体討論を通して、命について多面的・多角的に考える展開をとりたい。また、この教材をとおして「死」のあり方を見つめることは、今ある自他の「生」を尊ぶことにもつながる。次時の時間とつなげて、より良く生きる心情を育てていきたい。


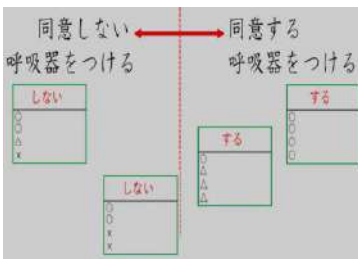
5 本時案

(1) 主眼

祖父の意思に反して延命措置を施すことについて葛藤する家族の姿を描いた文章と、尊厳死に対する複数の立場からの新聞投稿を通して、命について多面的・多角的に考えさせ、生命を尊ぶ心情を育てる。

(2) 準備物 電子黒板、ホワイトボード、PC

(3) 本時の展開

| | 学習活動・内容 | 予想される生徒の反応 | 指導上の工夫・留意点 |
|-----|--|---|--|
| 視覚化 | <p>【ねらい】命について考えよう。</p> <p>1 昨年度の学習の振り返りと尊厳死について知る。 [5分]</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・難しい内容だな。 ・これまでたくさん学んできたな。 ・全くイメージがつかないな。 ・「死」について考えたことがないな、ピンとこないな。 | <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の授業で扱った臓器移植について振り返るとともに、「尊厳死」について、プレゼンテーションソフトを用いて確認する。 ・本時のねらい・意義を押さえ、授業への意欲を高めさせる。 ・プレゼンテーションソフトを使い、場面について確認するとともに尊厳死に関連づける。 |
| | <p>2 資料（前半部）を読む。 [5分]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場面について確認する。 | | |
| 焦点化 | <p>3 資料（後半部）を読む。</p> <p>【補助発問】あなたは、尊厳死に賛成ですか、反対ですか。</p> | <ul style="list-style-type: none"> (賛成) 本人の意見を尊重。 (賛成) 自分だったら迷惑をかけたくない。 (反対) 長生きをして欲しい。 (反対) もしかしたら病気がよくなるかもしれない。 ※「自分が患者なら」「自分が家族なら」2つの立場からの考え。 | <ul style="list-style-type: none"> ・尊厳死に賛成・反対の立場を表明させるために、自分の立場（考え）をネームプレートで貼らせる。  |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・個人→全体 ・その意見になった理由を発表する。 <p>[10分]</p> | | |
| 共有化 | <p>4 考える・話し合う。 [20分]</p> <p>【主発問】あなたが家族なら、人工呼吸器をつけるのに同意しますか、しませんか？</p> | <ul style="list-style-type: none"> (同意する) 少しでも長く生きて欲しい。 (同意する) 可能性があるなら諦めたくない。 (同意しない) 本人の意思を尊重する。 (同意しない) 死はいずれ訪れるものだ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「家族」としての立場から考えさせるため、資料内の家族の思いを押さえる。 ・尊厳死賛成、延命措置は行わない方が多数になると考えられるので、延命措置をやらないことは、祖父の死につながることを伝える。 ・ホワイトボードの書き方を示すとともに、班での話し合いの様子が表れるように掲示させる。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・個人→班→全体  | | |
| 表現化 | <p>5 説話と振り返り [10分]</p> <p>【感想】授業で感じたこと、考えたことを書く。</p> | | |

第1学年

道徳科学習指導案

1 主題名 「差別や偏見のない社会の実現のために」【C-(1 1) 公正、公平、社会正義】

2 教材名 「公平と不公平」(日本文教出版「あすを生きる1」)

3 ねらい

公平とは何か、公平に接するとはどういうことか話し合う活動を通して、正義と公正さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努めようとする道徳的実践意欲や態度を育てる。

4 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

本主題は、中学校学習指導要領解説特別の教科道徳編、内容項目「公正、公平、社会正義」の「正義と公正さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努めること」に関するものである。

人は、他者との関わりの中で生きるものであり、誰もが幸せによりよく生きたいという願いは、あらゆる差別や偏見のない社会を実現したいという思いにつながる。その実現のためには、正義と公正さを重んじる精神が不可欠であり、不正を憎みそれを許さない姿勢やそれを積極的になくそうとする道徳的実践意欲や態度を育てることが大切であると考え、本主題を設定した。

(2) 生徒観

中学校に入学してから半年が過ぎ、生徒たちは本校の生活目標やきまりを理解するとともに、学校生活にも慣れてきており、お互いの生活態度について注意し合う様子や自らを律する行動が見られるようになってきた。しかしながら、学校生活の中では、相手を傷つけるような心ない言葉を発したり、相手を不快にさせるような態度をとったりする生徒を目にすることがある。また、不正な行動に気付きながらも、集団内での同調圧力に屈し、「見て見ぬふり」をしてやり過ごしてしまう生徒も少なくない。

(3) 教材観

本教材は、日常生活で起こり得る3つの場面(A～C)から構成されている。事例Aは「年齢によるお年玉の額の違い」、事例Bは「障がいがある(車いすを利用している)ことによる優先入場」、事例Cは「特技による作業(仕事)の偏り」についての場面が紹介され、「公平」といえるかどうかを問いかける設定である。

「公平か、不公平か」の判断に当たっては、兄弟姉妹の有無や、車いす経験(乗る・押す等)の有無など、生徒一人ひとりの家族構成や生活経験の違いを踏まえながら、その判断が導き出されるまでの思いを深掘りしていくことで、「公平、公正、社会正義」について多面的・多角的に理解を深めることができると考える。

(4) 指導観

「公平か、不公平か」の話合いでは、判断基準の多様性に気付かせるとともに、自己の中にある好き嫌いや有利か不利かというような自分本位な見方から脱却する過程をたどらせていくことで、目の前で起こった事態を「避けて通る」といった消極的な姿勢に気付かせ、他者の立場や思いを柔軟に想像し、尊重しながら、不正を否定して正義と公正を実現する努力ができるたくましい態度の育成につなげていきたい。

また、「公正、公平、社会正義」の内容項目に関係する道徳性の育成については、生徒指導領域の重点目標である「豊かな人権感覚の育成」へとつながるものであり、生徒会活動を中心にあらゆる教育的アプローチから生徒集団の自浄作用を促し、支持的風土を根付かせていくようにしたい。

5 学習の展開

| 進 | 学習活動 | 教師の発問や指示・生徒のつぶやき | 教師の支援 |
|--|---|--|---|
| 主題の共有 | 1 アンケート結果から、本時のめあてをつかむ。 | ○事前に行ったアンケートの結果と自分の出した判断を確認しよう。 ・自分は、公平（不公平）だと思う。 ・自分とは違う考えの人がいる。 | ○教材に示されている場面についてのアンケート結果を提示し、自分の考えと学級の結果を比較することで、「公平」に対する自分たちの判断の違いに気付かせ、学習の方向性を捉えることができるようにする。 |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【本時のめあて】 公平で差別や偏見のない世の中にするために大切なことについて考えよう。</p> </div> | | | |
| 考え、議論する | 2 教材を読み、公平か不公平か判断し、根拠を考える。 (1)自分とは反対の判断をした人の根拠を考える。 (2)自分が出した判断の根拠を考える。 ※タブレット型端末を活用して各自の考えをモニター及び個人への画面配信により、全体で共有する。 | ○自分とは反対の判断をした人が考えている根拠を想像してみよう。 ○自分が出した判断の根拠を考えよう。 《公平》青カード ④・年齢によって使い道が違う。 ・その歳になれば増額される。 ⑤・安全への配慮 ・日頃、車いすの人が不利益を被ることもある。 ⑥・本人が納得していれば。 ・他の人には、別の仕事を分担。 《不公平》赤カード ④・弟妹という理由で少ないのは。 ⑤・同じ料金を払っている。 ・皆、時間を犠牲にしている。 ⑥・都合よく押し付けられている。 | ○アンケート結果をもとに、各グループで考える事例を指定して焦点化することで、「公平、不公平」について柔軟かつ多面的・多角的に考えることができるようにする。 (T2：発問の意味を理解しているかの確認及び支援) ○「公平」について視覚的に捉えることができるように、「公平(Equity)」と「平等(Equality)」を比較した資料(絵)を提示する。 ○道徳的価値について考えを深めることができるように、以下のような補助発問をする。 補助発問 ・他人と扱いが違うが、公平だと思うのはどんな状況だろう。 ・「あってもよい違い(許される違い)」と「あってはならない違い(許されない違い)」にはどういうものがあるだろう。 (T2：班活動の観察及び支援) |
| 深化 | 3 公平とはどのような状態のことか考える。 4 公平な判断について話し合う。 (1)個人で考える。 (2)モニター及び個人への画面配信により、全体で共有する。 | ○公平な見方ができれば、世の中はどうか考えよう。 ・「公平」と「平等」は似てはいるが違うものである。 ・皆が公平な見方ができれば、差別や偏見がなくなるのでは。 【中心発問】 ○公平か不公平かを判断するとき大切なことは何だろう。 ・立場、年齢、状況の違い。 ・その人だけ辛い思いをしない。 ・人権に関わること。 ・皆が同じ条件になる。 | ○自分自身との関わりで考えることができるように、本時で学んだ「人によって立場や考え方・感じ方が違う」という視点を想起させる。 (T2：ワークシート記入の支援) |
| | 5 本時の学習を振り返り、本時のめあてについて考えたことをまとめる。 (1)個人でまとめる。 (2)班で共有する。 (3)全体で共有する。 | ○今日の授業で考えたような場面で、あなたならどう行動したいか、また差別や偏見のない世の中にするために考えたことをまとめよう。 ・相手の立場や置かれている状況に目を向ける。 ・自分の考えだけで、物事を決めつけない。 ・なぜそのようになるのか、理由を考える。 | |

【評価の視点】

- 学習活動2・4において、自分の考えだけに偏らず、異なる立場からの考えなど多面的・多角的な視点から考えている。
- 学習活動4において、公平か不公平かの判断について、自分自身との関わりで考えている。

第2学年

道徳科学習指導案

1 主題名 「分かり合うこと」【B-（9）相互理解、寛容】

2 教材名 「コトコの涙」（日本文教出版「あすを生きる2」）

3 ねらい

ボランティアでの体験から自分の狭さに気付いた主人公の変容について話し合う活動を通して、互いの個性や立場を尊重し、広い視野に立って様々なものの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他者に学ぼうとする心情を育てる。

4 主題設定の理由

（1）ねらいとする道徳的価値について

本主題は、中学校学習指導要領解説特別の教科道徳編、内容項目「相互理解、寛容」の「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていくこと」に関するものである。

中学生段階になると、ものの見方や考え方が確立するとともに、それに固執する傾向も見えてくる。人は、物事を捉える際にどうしても自分の見方や考え方にこだわりがちである。視野を広げるためには、自らを見つめ直し、他者に学ぶことが大切である。生徒には、人と関わる中でより高い道徳的価値観をもつことができることに気付かせるとともに、謙虚に他者に学ぼうとする心情を育みたいと考え、本主題を設定した。

（2）生徒観

本学級は、「全笑全楽」の目標の下、男女ともに行事等に向けて団結して取り組んでいる。他者や立場を尊重すべきことは知っているが、一時の感情が勝ってしまったり、意見の食い違いや他者の個性や考えを受け入れられなかったりして不仲になる場面もみられる。一方で、人間関係の摩擦を避けるために、他人の過ちを大目に見たり、安易に人の意見に合わせたりする姿も見られる。一人ひとりが異なった考えをもつことについて理解を深め、私心のない心をもって他者に学ぶことの大切さに気付かせていくことが大切である。

（3）教材観

本教材は、中学2年生の主人公コトコがボランティアで通っている老人ホームで体験したある出来事を通して、互いの異なる個性や立場を尊重することの大切さに気付かされる話である。よかれと思ってとった行動を友人に批判され、その真意を理解できずに悩む姿は、生徒にとって共感しやすいと考えられる。コトコが自分の狭さに気づき涙を流す場面を、主人公の心の変容する中心場面として捉え、ここに中心発問を設定することで、自己の視野を広げるためには他者に学ぶことが大切であることを感じ取れる教材である。

（4）指導観

展開においては、マサシの真意を理解できないコトコの思いと、笹岡さんに対するマサシの思いを様々な角度から共感的に考えていくことで、両者とも笹岡さんのことを大切に考えていることに気付かせるとともに、分かり合うことについての必要性をもたせたい。

終末では、コトコが涙を流しながら気付いたことを手掛かりに、相互理解の難しさを捉えさせるとともに、人と人が分かり合うために大切なことを、日常生活と関連付けて考えさせたい。

5 学習の展開

| 議題 | 学習活動 | 教師の発問や指示・生徒のつぶやき | 教師の支援 |
|---------|--|--|--|
| 主題の共有 | 1 教材の導入場面について想起し、本時のめあてをつかむ。 | ○ 一人にいる老人がいたらどうしますか。 ・声をかける。 ・そっとしておく。 【本時のめあて】 人と人が分かり合うために大切なことについて考えよう。 | ○ 主題に関わって、立場やこれまでの経験から判断することで、本時で扱う「相互理解、寛容」を意識することができるようにする。 |
| 考え、議論する | 2 教材を読み、コトコとマサシの行動とその背景について話し合う。 (1) 個人で考える。 (2) 班で話し合う。 (3) 全体で共有する。 3 コトコの涙にはどんな思いが込められていたか話し合う。 (1) 個人で考える。 (2) 班で共有する。 (3) 全体で共有する。 | ○ コトコとマサシは分かり合うことができるだろうか。 【補助発問】 ・2人とも笹岡さんのために思って行動している。 ・笹岡さんの過去をコトコも知っていればマサシと同じ行動ができる。 【補助発問】 できない ・お互いの立場が違う。 ・笹岡さんの情報量が違う。 ・一度対立してしまったので気まずい。 【中心発問】 ○ 「マサシくんのおかげ…」に続く言葉は何だろう。 ・自分の気持ちの押し付けに気付いた。 ・相手の立場や気持ちを考えた言動をすべきだったと気付かされた。 ・笹岡さんのことを知ることができた。 ・自分の考え方を広げることができた。 ・他の人に相談したり、アドバイスをもらったりすればよいことに気付いた。 ○ 人と人は本当に分かり合えるのだろうか。 ・相性がよかったらできる。 ・それぞれに個性があるから難しい。 ・個性があるから、相手のすべてを理解することができない。 ・お互いの意思を伝え合えばできる。 ・話しても、相手の心の内までは知ることができないから難しい。 ・初対面では難しい。 | ○ コトコとマサシの立場の違いを踏まえて考えることができるように、図で登場人物の関係性を示す。 ○ 分かり合うことの必要性に気付くことができるように、以下の補助発問をする。 【補助発問】 ・コトコとマサシは分かり合う必要性があるだろうか。 ・分かり合えないとどのような世界になるだろうか。 (T2: 班活動の観察及び支援・評価) ○ 自分の狭さに気付いたコトコの思いについて考えることができるように、以下の補助発問をする。 【補助発問】 ・マサシに言われて、コトコに何か変化があったか。 ・マサシがいなかったら気付かなかったことは何だろう。 (T2: 班活動の観察及び支援・評価) ○ 一人ひとりが違って当たり前であり、違うことがよいということに気付くことができるように、以下のような補助発問をする。 【補助発問】 ・相性がよくないとできないのか。 ・個性があるから難しいのか。 ・完全に相手を理解しないと分かり合えないものなのか。 (T2: 班活動の観察及び支援・評価) |
| 深化 | 4 本時の学習を振り返り、本時のめあてについて考えたことをまとめる。 (1) 個人で考える。 (2) 全体で共有する。 | ○ 人と人が分かり合うために、大切なことはどんなことだろう。 ・相手を思いやること。尊重すること。 ・相手の考えを受け入れること。 ・自分の考え方を柔軟に変えること。 ・みんな違うことが当たり前という考えをもつこと。 ・自分の思いを押し付けるのではなく、相手の状況や本当の思いなどを考えて理解すること。 ・意見が対立しながらも、同じ目標に向けて共に取り組むこと。 | ○ 部活動、学級活動など日常生活を想起させることで、自分自身との関わりで振り返ることができるようにする。 【補助発問】 ・様々な集団で生活する中で、考えが違う人とどう付き合うか。 (T2: 道徳ノート記入の支援・評価) |

【評価の視点】

- 自分と違う立場や考え方や感じ方があることを踏まえて、これからの人との関わりについて考えようとしている。
- 道徳的価値を実現することの難しさを自分のこととして捉え、考えようとしている。

第3学年

道徳科学習指導案

1 主題名 「相手の気持ちを考える」【B－（9）相互理解、寛容】

2 教材名 「言葉の向こうに」（日本文教出版「あすを生きる3」）

3 ねらい

インターネット上のやりとりから主人公が気付かされたことや発見したことについて話し合う活動を通して、それぞれの立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解して、寛容の心をもとうとする態度を育てる。

4 主題設定の理由

（1）ねらいとする道徳的価値について

本主題は、中学校学習指導要領解説特別の教科道徳編、内容項目「相互理解、寛容」の「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていくこと」に関するものである。

中学3年生にもなると、ものの見方や考え方が確立するとともに、自分の考えや意見に固執する傾向も見えてくる。個性や立場を相互に尊重することによって、誰もが様々な立場に立って個性を發揮することができるよさが生まれることに気付かせたい。また、相手や場面が変わっても寛容の心を持ち謙虚に他に学ぶことは、人間としての成長につながることにについて考えさせたいと考え、本主題を設定した。

（2）生徒観

学校生活において、生徒は授業に落ち着いて取り組んでおり、行事や学級活動にもお互いが協力して取り組む様子が見られる。しかし、人間関係においては、相手の気持ちを思いやれない言動から、誰かが我慢をするような状況も見られる。また、自分が傷つくことを恐れるあまり、安易に同調したり、一定の距離をとった関係しかもたなかったり、友達との関係に悩むなどの生徒も少なくない。人とよりよい関係をつくるためには、自分の考えや意見を相手に伝えることも、他者の個性や立場を尊重することも、どちらも大切であるということについて、学んでいく必要がある。

（3）教材観

本教材は、相手の顔が見えないインターネットの世界で、自己の考えを一方向的に押し付けてしまった主人公がトラブルに巻き込まれる様子が描かれた話である。ネット上でのやりとりを見た人の「言葉の向こうにいる人々の顔を思い浮かべてみて」という言葉をきっかけに、主人公の心が変容していく場面において、自分の発する言葉の先にそれを受け取る他者がいることを考えさせることができる。また、広い視野をもつ人間として成長するためには寛容の心をもつことが大切であるということ、生徒自身が自分事として捉えることができる教材である。

（4）指導観

タブレット型端末を活用し、短時間で自分の考えと学級全体の考えを比較したり、視覚的に傾向を捉えたりすることで、道徳的価値に対する自己理解や他者理解を促す。

情報モラル教育の視点をもった教材であるため、「A節度、節制」「B礼儀」「C規則の尊重」等の内容項目との関連を踏まえながら、本時のめあてを軸として「相互理解、寛容」に向けて話し合いが進むように留意する。

5 学習の展開

| 進 | 学習活動 | 教師の発問や指示・生徒のつぶやき | 教師の支援 |
|---|--|---|--|
| 主題の共有 | <p>1 SNSトラブルの事例について話し合い、本時のめあてをつかむ。</p> <p>(1)個人で考える。 (2)全体で話し合う。</p> | <p>○あなたなら、次の場面でどうしますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・返事をする（白カード） ・返事をしない（ピンクカード） | <p>○タブレット型端末を用い、カードの色で立場を分けることで、一つの言葉でも様々な受け止め方があることを視覚的に捉えることができるようにする。</p> <p>（T2：カード記入の支援）</p> |
| <p>【本時のめあて】 よりよいコミュニケーションをとる上で大切なことについて考えよう。</p> | | | |
| 考え、議論する | <p>2 教材前半（P.88の9行目まで）を読み、主人公の行動について話し合う。</p> <p>(1)個人で考える。 (2)全体で話し合う。</p> <p>3 教材の後半を読み、主人公の変容について話し合う。</p> <p>(1)個人で考える。 (2)モニターに映し出し、全体で共有する。</p> | <p>○主人公がとった対応を、理解できますか。</p> <p>〈理解できる派〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・悪口を言われたら腹が立つから。 ・とっさに発言してしまうから。 <p>〈理解できない派〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トラブルになるから。 ・言い返しても無駄だから。 <p>【中心発問】</p> <p>○主人公が発見した「すごいこと」とは何だろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の気持ちを考えること。 ・誤解があるかもしれないから許す心をもつべきだ。 ・自分の考えだけを押しつけて、相手の意見を聞こうとしなかった。 ・いろんな考えがあって、正解だ。 ・みんなのサイトだから気持ちよく使うべきだ。 | <p>○理解できるかできないかを数直線に表して各自の立場を明確にすることで、主人公の行動を多面的・多角的に考えることができるようにする。</p> <p>（T2：カード記入の支援）</p> <p>○寛容の心を持ち、謙虚に他に学ぶことについて考えを深めることができるように、以下の補助発問をする。</p> <p>補助発問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私が思い出した「いちばん大事なこと」とはどんなことだろう。思い出したことと発見したことの違いは何か。 ・「相手の気持ちを考える」とは、どういうことか。 ・加奈子が巻き込まれたトラブルに仲裁に入ったファンは、何を伝えたかったのか。 <p>（T2：グループ活動の観察・支援）</p> |
| 深化 | <p>4 本時の学習を振り返り、本時のめあてについて考えたことをまとめる。</p> <p>(1)個人でまとめる。 (2)全体で共有する。</p> | <p>○お互いの立場や考え方を尊重するために大切なことはどんなことだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人の考え方は様々で、自分とは違うとり方をする場合がある。 ・お互いの自由があることを理解し、お互いがその自由を守ろうとすることが大切。 | <p>○ネット上だけでなく、学校生活の中での話し合いなど、様々なコミュニケーションの場を想起させることで、自分自身との関わりで考えることができるようにする。</p> |

【評価の視点】

- 自分の考えと学級全体の考えを比較したり傾向を捉えたりして、「相互理解、寛容」について多面的・多角的に考えようとしている。
- 自分と異なる立場や考え方を尊重することについて、自分との関わりで考えようとしている。

第1学年 道徳科学習指導案

- 1 主題名 「公德心」〔内容項目C(10)遵法精神、公德心〕
- 2 教材名 「島耕作 ある朝の出来事」(廣濟堂あかつき『中学生の道徳1』より)
- 3 ねらい 朝の通勤電車での出来事について考え、議論することを通して、公共の場において互いに配慮し合い、尊重し合うことの大切さに気づき、住みよい社会をつくっていかうとする道徳的実践意欲を培う。

4 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

公德心とは、社会生活の中で守るべき正しい道としての公德を大切にできる心である。一人ひとりの日常生活の中で具体的に生かされることで、住みよい社会が実現できる。法やきまりについては、その遵守とともに、一人ひとりが当事者として関心をもつことが大切であり、その在り方について考えることが必要である。

(2) 生徒の学習状況や実態と教師の生徒観

小学校の段階では、特に高学年で、法やきまりの意義や自他の権利を大切に、義務を果たすことの意義について学んできている。中学校の段階でも、入学して間もない時期には、法やきまりに従えばそれだけでよいと考え、「ルールだから守る」と他律的に捉えている生徒が多い。そのことが、公共の場において自分本位な行動をとってはならないことをある程度理解してはいるが、他者や周囲への配慮に欠けた言動はしばしば見られるなど、理解したことを十分に実践できていない実態もある。また、集団意識として、法やきまりについてその意義を一層理解することができるようになる反面、自分たちを拘束するものとして反発したり、自分の権利は強く主張したりするものの、自分の果たさなければならない義務をなおざりにする傾向も見られる。

(3) 教材の特質や教材を生かす具体的な活用方法

本教材は、熱血漢島耕作が、混雑した電車内で老婦人に席を譲らぬサラリーマンに業を煮やし、ついに爆発、相手を面罵するという「課長 島耕作」の一場面に、その時の状況説明を加えた異色資料である。席を譲る譲らぬという内容から公德心を扱った資料でもあるが、資料後半の新聞投稿を追加して範読することで視点を変え、実は島耕作の言動は周囲の迷惑になっていたことから、「配慮(思いやり)のない行為」と捉え、車内の状況を想像しながら、時と場に応じた言動の在り方から思いやり、礼儀、公德心について考えを深められる教材である。また、主人公島耕作の言動から、相手を思いやる気持ち、こうあるべきという公德から生まれた行動であっても、周りの人や状況を一切無視した物言いや態度は、人を不快にさせることもある。頭ではわかっているつもりでも、感情や自己中心的な考えが優先してしまい、周囲のことが目に入らなくなってしまうことに共感しながら考えを深めることができる教材である。

指導に当たっては、心情グラフを活用することにより、自分の意見や考えを表明させるだけでなく、級友の意見や考えも可視化することで安心して自己表現できる場を設定したい。考えを深める時間、議論する時間、ワークシートに記入する時間などメリハリのある授業を展開できるようにしたい。

5 研究の視点との関係～考え議論する道徳のための工夫～

内容項目「遵法精神、公德心」はCの視点「主として集団や社会との関わりに関すること」に位置付けられている。生徒たちは、小学校から大きなクラス替えがなく、お互いの個性をよく理解し合っている反面、集団の中で自信をもって発言することが難しい者が多く、自己決定力や自己表現力があまり身に付いていない。そこで、決められた立場だけの考えではなく、さまざまな立場での考えを抽出することで多面的に考えを深められるようにしたい。また、問い返し発問をすることで多角的に考えたり、自身とは異なる価値観に触れさせたりして、マナーについての意識を高めたい。

そのために、KJ法を用いてさまざまな意見をグルーピングすることにより、多様な考えがあることに触れさせ、それぞれの価値観に深まりをもたせたい。

また、地域人材を活用して、各グループ活動に参加してもらい、生徒の意見や考えに深まりをもたせるため、状況に応じて発言機会を設けたい。本教材のような場面をイメージしづらい生徒への対応として、地域内で実際に体験された経験談を語ってもらったり、問い返したりする話し合い場面を設定し、生徒の本心を引き出す役割を果たしてもらえよう、事前の打ち合わせを行いたい。

6 本時案

(1) 主眼 朝の通勤電車での出来事について考え、議論することを通して、公共の場において互いに配慮し合い、尊重し合うことの大切さに気づき、住みよい社会をつくっていかうとする道徳的実践意欲を培う。

(2) 本時の展開

| | 生徒の活動・学習内容 | 予想される生徒の反応 | 指導上の留意点・評価の視点 |
|-----------|--|---|---|
| 導入 10分 | 1 「本文」と「投書」について考える。 ・自分の価値観 <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;">サラリーマン</div> <div style="display: flex; gap: 20px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 40px; height: 40px; display: flex; align-items: center; justify-content: center;">イ</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 40px; height: 40px; display: flex; align-items: center; justify-content: center;">ア</div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 10px;">島耕作</div> </div> | <p>「島耕作」と「サラリーマン」は、のどちらが正しいと思うか。</p> <p>〔島耕作〕 ア 正義感があり、正しい主張をしている。 〔サラリーマン〕 イ 自己中心的だと思うが、当然の主張をしている。</p> | <p>○「本文」を範読する。</p> <p>○心情メーターを活用し、ネームプレートで立場を表明させる。 ○各立場の主張を板書し議論の視点を焦点化する。 ○〔島耕作〕派か〔サラリーマン〕派に挙手をさせ、理由を説明させる。</p> |
| | | 「投書」を範読して、なにを感じたか。 | |
| | | ア 素敵の人だと思う。 イ 誰もがこの足の不自由な男性のように他人と接したらよい。 | ○「投書」を範読する。 ○「なぜ男性の笑顔に救われたのか」を考えさせる。 |
| 展開 30分 | 2 「島耕作」の言動を焦点化し、「公德心」について考える。 ・協調性 ・配慮 ・思いやり (自分勝手な思いやり) | <p>「島耕作」や「サラリーマン」には、“なにが”欠けているか。</p> <p>ア 正しい主張だとしても、相手の立場も考えること。 イ 正義感の中に、周囲のことを考える思いやり。 ウ 自己満足になっていた。 エ 自己中心的な言動が、周囲に与える影響。</p> | <p>○「投書」で感じたことと、〔島耕作〕や〔サラリーマン〕の言動とを比較させ、“どんなことが欠けていたか”をグループで考えさせる。 ④グループ活動に参加してもらい、生徒の本音を引き出すような問い返し発問を行う。 ○さまざまな立場での言動から、「誰が」「どうすればよかったのか」を考えさせる。また、それらがどのような影響を与えるのかを想起させる。 ○本心や感情と言動とのギャップなどを指摘して議論を深める。</p> |
| | 3 「住みよい社会」について考えを深める。(KJ法) ・社会性 ・連帯感 ・思いの可視化 ↓ 価値理解 ↓ 自己理解 | <p>中心発問 誰もが住みよい社会をつくるためには、“なにが”大切か。</p> <p>ア お互いを思いやる心 イ 互いの事情を尊重したり配慮したりする気持ち ウ その場にいる全員のことを考えた言動 エ 見て見ぬ振りをせず、困った人に手を差し伸べられる優しい心</p> | <p>○複数の他人が集まり形成される集団が『社会』であることを押さえる。 ○アとイの意見については、「個」が行うことが『社会』に良い影響を与えることを確認し、価値付けをする。 ○ウの意見については、「集団」を意識した言動には多少の配慮が必要であることを確認する。 ④人生経験を語ってもらい、生徒に多面的・多角的な考えや意見がもてるよう補助的役割を担う。</p> |
| 終末 10分 | 4 学んだことを踏まえて、「自分の在り方」について考える。 ・人生観 | <p>ア 相手に対して思いやりのある言動を心がけたい。 イ 自分だけでなく、互いに助け合ったり支え合ったりして、社会は成り立っていくと思った。</p> | <p>○各グループがまとめた内容を、巡視する時間を設定する。 ○十分に時間を確保して記入させ、何人かに発表させて学びを共有する。 【評】誰もが住みよい社会をつくっていかうとする実践意欲を高められたか。また、これまでの自分自身を見つめ直し、これからの自分の在り方について考えている発言や記述は見られたか。</p> |

第2学年 道徳科学習指導案

- 1 主題名 「社会の規範を守る」 [内容項目C(10) 遵法精神、公德心]
- 2 教材名 「傘の下」(廣済堂あかつき『中学生の道徳2』より)
- 3 ねらい 自分の都合で他人の傘を持ち帰った「僕」の行為の問題点について考えることを通して、社会規範やきまりの意義について認識を深め、公德を重んじ、規律ある社会の実現に努める道徳的態度を養う。

4 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

人間は、他者と集まり社会を形成して生活を営むものである。その中で、一人ひとりが勝手に「個」の利益や自由ばかりを追求すれば、ぶつかり合い、集団のまとまりがなくなり、社会生活は成り立たなくなってしまう。「法やきまり」は、この集団に秩序を与え、摩擦を最小限にするために、人間の知恵が生み出した物であることを知り、社会の秩序と規律を守ることによって個人の自由が保障されるということを理解することは、集団生活を行う上で非常に大切である。一人ひとりが当事者として関心をもち、よりよい社会の実現をめざして努力していくことが必要である。

(2) 生徒の学習状況や実態と教師の生徒観

本学級の生徒たちは、これまでの学習や生活の中で「法やきまり」を守っていく意義について学びを重ねてきている。日々の授業や部活動に一生懸命に取り組み、その中で、学校内外での規則を守ろうとする態度は多く見られる。しかし、「法やきまり」を、勝手に決められた制限と捉え、言われたから守るという他律的な捉え方から意義を考えず仕方なく従っている生徒も多い。ゆえに、「法やきまり」は自分自身や他者の生活の権利を守るためにあり、それを遵守することの大切さを自覚し、その意義について考えを深めることは、本学級の生徒にとって大きな意味があると考えられる。

(3) 教材の特質や教材を生かす具体的な活用方法

病院から帰ろうとした主人公の「僕」は、雨の中を濡れて帰ることを避けようと、傘立てにあった傘を無断で使ってしまう。悪いこととは知りながらも、心の内で都合の良いように現実を解釈し、自分勝手な判断に身を委ねる。しかし、当然のことながら、そのせいで傘を無くし、濡れて帰った人がいるわけである。後日、罪悪感に苛まれ傘を返しに行った際、傘の持ち主と遭遇し、自らの行いについて考える。本教材は「僕」の勝手な行為とその考え方の問題を探ることで、公德や、社会の規範を守る意義について、考えを深められる教材である。

指導に当たっては、「僕」の勝手な行為の裏にある、心の弱さや自分勝手な考え方を自分事として捉え、社会の中に存在する「法やきまり」が何のため、誰のためにあるのかを考えさせることで、本時のねらいに迫りたい。

5 研究の視点との関係から～考え議論する道徳のための工夫～

生徒達は、これまでの学習や生活の中で「法やきまり」を守らないのは良くないことであることは理解しており、本教材の「僕」に対して、批判的な感想をもつことが予想される。しかし、「僕」の心情は誰にでも身に覚えがあることであり、人には誰でもそのような側面があることをやりとりの中で捉えさせたい。その上で、各班での話し合いに地域の方々に参加していただき、学校や家庭の生活だけでは実感できない社会規範の大切さについて話をしてもらったり、意見を述べてもらったりして、議論を深めたい。また、きまりを守ることを自律的に考えられるようにするため、「人に迷惑をかけるから、社会が成り立たなくなってしまうから」という考え方の先にある、「自分も含めた社会に生きる人々全員が安心して暮らすため」という考えを引き出せるよう、「誰のためにきまりがあるのか」を子ども、教師、地域の大人それぞれの意見から、じっくりと考えていきたい。

6 本時案

(1) 主眼 自分の都合で他人の傘を持ち帰った「僕」の行為の問題点について考えることを通して、社会規範やきまりの意義について認識を深め、公德を重んじ、規律ある社会の実現に努める道徳的態度を養う。

(2) 本時の展開

| | 学習活動・学習内容 | 予想される生徒の反応 | 教師の手立て・評価の視点 |
|-------------|--|---|--|
| 導入 (10分) | 1 僕の行動の理由を考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> きまり、ルール </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 自分勝手な考え </div> | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 駄目だとわかっていながら、「僕」はなぜ傘を持って行ってしまったのか </div> ア 濡れたくなかったから イ 誰も見てなかったから ウ 自分のことしか考えてないから エ 前から置いてあるし大丈夫だと思ったから | ○教材は事前に範読しておく。 ○授業の最初にあらすじを確認する。 |
| 展開 (30分) | 2 自分の弱さや自分勝手な心に負けてしまう理由を考える。また、全員が自分勝手な行動をすると、社会がどうなるのか考える。(個人→発表) 「人が弱さに負け、自分勝手に行動してしまうのはなぜ？」 | <なぜ弱さに負けてしまうのか> ア 自分さえよければよいから イ 人が見てなければよいから ウ 迷惑をかけなければいいから エ 少しくらいならと思うから (個人→発表) <社会はどうなってしまうか> オ みんなが困ってしまう カ 社会が崩壊してしまう キ 嫌な思いをする人が増える ク 自分も困ってしまう (個人→発表) | ○意見を発表させ、僕の自分勝手な考え方を挙げさせる。 ○人間の弱さを捉えさせるため「僕の気持ちも理解できるという共感的な心情」をもたせた上で次の活動にうつる。 ○ウの意見に対しては「迷惑かどうかは、自分勝手な判断でいいのか」を問い、他者視点から考えさせる。 ○ある程度議論が進んだら「社会で生活する人たちがみんなそう思っていたら、どうなるか」を問い、社会集団としての視点を与える。 ○オ～キのように社会全体や自分以外の人の視点しかでなかった場合は、生徒への問い返しの中で、クの考え方を引き出す。 ☆地域の方に巡回していただき、生徒の考えを引き出してもらおう。 |
| | 3 きまりやルールの意義を考える。(議論) | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 中心発問：きまりやルールは、何のためにあるんだろう </div> ア 社会を守るため(社会規範) イ 人に迷惑をかけない(他者意識) ウ みんなにとって住みやすい世の中にするため(公德) →誰のため? エ 他者を守るのはもちろんだが、自分も守ってくれるもの | ☆地域の方と一緒に議論をする。 ○地域の方には、社会でのきまりの意義を話していただき、生徒達にない視点を与えてもらう。 ○意見が出たところで、教師から「きまりは結局誰のためにあるんだろう」と問う。 ○「社会や人って具体的に誰のこと？」と問い返し、きまりを守ることが他者だけでなく自分も守ることにつながると気付かせたい。 ○振り返りシートに記入し、発表し全体で共有させる。 ○振り返りをした後、地域の方に講評をいただく。 <評>友達や地域の方の意見を聞き、きまりを守る意義を、自分なりに考えることができたか |
| 終末 (10分) | 4 今後の生活で、きまりを守る上でどのような気持ちをもちたいか考える。 | ア 自他共に気持ちよく過ごすために、社会のルールを守りたい イ きまりやルールが、何のためにあるのかわかったので、守っていききたい ウ 自分も他人も尊重していきたい | |

第3学年 道徳科学習指導案

- 1 主題名 「法やきまりの意義」 [内容項目C (10) 遵法精神、公德心]
- 2 教材名 「元さんと二通の手紙」(廣濟堂あかつき『中学生の道徳3』より)
- 3 ねらい 善意に基づきながらも規則を破った「元さん」への処分の是非についての意見交換を通して、法やきまりが集団や社会の秩序を保ち、自他の生活や権利を守っていることに気付き、法やきまりを守ることで規律ある安定した社会の実現に努める道徳的態度を養う。

4 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

人間が集まって作られる社会では、個人間で権利の対立が起こり秩序が保たれなくなる。そのため、社会の秩序を保つために法やきまりが必要になる。つまり法やきまりを守ることは社会の秩序を維持し、自他の生活や権利を守ることにつながるのである。みんなで決めた法律に基づいて物事が進む法治国家では、法やきまりを守ることは当たり前のことである。ただ「きまりがあるから守る」「罰則があるから守る」という理由だけで守っているとしたら「法の遵守」は危ういものになる。「法やきまり」については、一人一人が当事者として関心をもってその在り方について考えその意義を理解した上で守っていく必要があると考える。

(2) 生徒の学習状況や実態と教師の生徒観

生徒はこれまでに規則の尊重について、法や社会のきまりの意義を理解し守ることが自他の権利を大切にし、義務を果たすことにつながること学んできた。しかし、日常生活の中で生徒は「法やきまりに従えばよい」「ルールだから」「叱られるから、罰則があるから守らなくてはいけない」など、当事者としての関心が低く、その在り方について考えることは少ない。また、「校則」についていえば、きまりは自分たちを拘束するものと捉えて不満を抱く生徒も見られる。

(3) 教材の特質や教材を生かす具体的な活用方法

本教材は、動物園に長く勤めている元さんが、幼い姉弟に同情して規則を破り、その結果懲戒処分を受け、動物園を辞めていったというものである。幼い弟の誕生日に動物を見せてやりたいという姉の姉弟愛に同情する元さんに共感する者もいるかもしれない。また、善意から発した元さんの行動を善行と捉えて、動機と目的が善ならば、多少の規則破りは大目に見てもよいのではないかという考え方をする者もあるかもしれない。しかし、本時で考えたいのは元さんのとった行動の善し悪しではなく、きまりや規則の意義についてである。個人的な理由できまりや規則を破ることが、秩序が保たれた規律ある社会を築くことにどのような影響を及ぼすのかということである。指導に当たっては、導入部分で事前アンケートの集計結果を使って、本時で取り上げる道徳的価値への方向付けを行った後に、資料の内容を確認し、T1教諭とT2教諭が、個人的な理由を認めて規則違反を正当化する立場(懲戒処分は厳しすぎる派)と個人的な理由を認めず規則遵守を貫く立場(懲戒処分は妥当である派)に分かれてやりとりを行う。その後、全体を2つの立場に分けて話し合いに入りたい。

5 研究の視点との関係～考え議論する道徳のための工夫～

本時の中心となる活動は、2つの立場に分かれて行う話し合いである。この話し合いでは、「規則を破った元さんに対する懲戒処分は妥当だと思いますか。」という発問のもと、それぞれの立場の正当性を裏付ける理由を考える。この話し合いのポイントは、「情」や「善意」と「遵法精神」の対立にあるのではないかと考える。そこで、話し合いに入る前にT1教諭とT2教諭による「厳しすぎる」と「妥当である」という2つの立場でのやりとりを見せて、このことをつかませてから円滑に話し合いに入らせた。

また、話し合いの時間を確保するために朗読CDによる資料提示(10分54秒)は授業前に行っておく。さらに本時の話し合い活動は、人の話を聴くこと、考えること、話すことを大切にしたいのでメモは取らせず、席を離れて立ったまま行わせる。まとめはワークシートを用いて、話し合いの中で確認した法やきまりの意義に照らして、これまでの自分を振り返ることで自己理解を深めさせたい。

6 本時案

(1) 主眼 善意に基づきながらも規則を破った「元さん」への処分の是非についての意見交換を通して、法やきまりが集団や社会の秩序を保ち、自他の生活や権利を守っていることに気づき、法やきまりを守ることによって規律ある安定した社会の実現に努める道徳的態度を養う。

(2) 本時案

| | 生徒の活動・学習内容 | 予想される生徒の反応 | 指導上の留意点・評価の視点 |
|----|------------------------------------|--|---|
| 導入 | 1 事前アンケートの結果から本時の主題となる道徳的価値について知る。 | <p>どんな場合であっても、どんな理由があろうとも法やきまり、規則は必ず守らなくてはならない？</p> <p>【はい】それはなぜですか</p> <p>【いいえ】法やきまり、規則を守らなくてもいいのはどんな場合ですか。</p> | |
| | 2 資料の内容を振り返って、その内容について考える。 | <p>【は い】</p> <p>ア 法やきまり、規則は大切だから。</p> <p>イ みんなが守らないとめっちゃくちゃになるから。</p> <p>【いいえ】</p> <p>ア 人の生命がかかっているとき。</p> <p>イ 誰かを助ける場合。</p> | <p>○本時で考える道徳的価値について知らせる。(価値への方向付け)</p> <p>○資料の要点をまとめたパワーポイントを使って全体で振り返る。</p> |
| 展開 | 中心発問：規則を破った元さんに対する懲戒処分は妥当だと思いますか。 | | |
| | | <p>【厳しすぎる】 T1</p> <p>ア 善意から出た行動だし子どもや母親も喜んで感謝している。</p> <p>イ みんなに迷惑をかけたが、子どもは無事見つかったので良いのではないか。</p> <p>【妥当である】 T2</p> <p>ア みんなに迷惑をかけたのだから厳しい処分は当然である。</p> <p>イ 子どもは無事だったが、子どもの安全を考えていなかった責任は大きい。</p> <p>ウ また、同じようなことが起こっては困るので厳しい処分は必要。</p> <p>エ 社会の秩序を保ち、個人の権利や生活を守るためにある。</p> | <p>○この発問に関するT1、T2のやりとりを聞く。T1、T2はそれぞれの立場に立ってやりとりをする。</p> <p>○2つの立場に分かれて互いに相手を納得させる理由を考える。2つの立場は、個人の判断とは関係なく無作為に分ける。</p> <p>○交互に意見を述べたあと、相手の主張に対する反論、質問を考える時間を取ってもらう一度意見交換を行う。</p> <p>○メモは取らせず、聞くこと、考えること、話すことに集中させるため議論は席を離れて立ったままで行わせる。</p> |
| 終末 | 元さん自身は、この懲戒処分をどんな気持ちで受け止めたのだろう。 | | |
| | 3 法やきまりの意義について考えをまとめる(価値理解) | <p>ア 自分の非を認め、反省した。</p> <p>イ 今までの自分の考えが甘かったことに気付いた。</p> | <p>○元さんの気持ちの変化から、法やきまりの意義に迫る。</p> <p>○法やきまりがある理由について、まとめる。(価値理解)</p> |
| | 4 今までの自分、これからの自分を考える。(ワークシートへの記入) | <p>ア 社会の秩序を保つためにきまりを守っていきたい。</p> <p>イ 全ての人の自由と権利を守るために法やきまりを守りたい。</p> | <p>○本時の価値理解を基に自分のことを振り返る。(自己理解)</p> <p>【評価】法やきまりの意義を理解した内容の記述が見られたか。</p> |

第1学年 道徳科学習指導案

1 主 題 心から信頼できる友達 【内容項目B-(8) 友情, 信頼】

2 教材名 「近くにいた友」(日本文教出版)

3 ねらい 人間関係のトラブルの原因を考えることを通して、互いに信頼し高め合う友情の大切さを理解し、いっそう友情を大切にしようとする態度を育てる。

4 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について(価値観)

中学校の学習指導要領の内容項目「友情, 信頼」には、「友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合うとともに、異性についての理解を深め、悩みや葛藤も経験しながら人間関係を深めていくこと」をめざすことが示されている。小学校から中学校に入学し、新たな出会いの中で人間関係に関する悩み直面する生徒も少なくない。中学校の指導の要点である「悩みや葛藤」を乗り越えるためにも、信頼できる友達の存在や互いに励まし合うことのできる人間関係の構築が必要であることに気づかせたい。また、人間関係がうまくいかなくなってしまったときに、問題と向き合い、他者の視点にたって多面的・多角的に考えることができるようになることを期待する。

(2) 生徒の実態について(生徒観)

本学級は、お互いを尊重しようとする生徒が多い。そのため、道徳の授業では、自分の意見を積極的に主張するだけでなく、他者の意見に同意したり、反論したりするなど多様な反応が見られる。しかし、表現する言葉が見つからず、稚拙になったり、言葉足らずになったりすることも多い。伝えたいことが思うように言語化できないときは、言い方が投げやりになってしまうこともあり、誤解を生んでしまいがちである。そのため、教師が言い換えたり、言葉を補ったりすることで、表現力を向上させるために工夫していく必要がある。本時で行う役割演技は、これまでに何度か実践している。生徒は意欲的に取り組むことができるが、短絡的な発言にとどまってしまう傾向がある。より深めて考えられるような問い返しや補助発問を準備しておく必要がある。

(3) 教材について(教材観)

本教材は、主人公が野球部でミスをしている姿をSNSに投稿されたことで生まれた人間関係のトラブルが描かれている。劣等感から友人を疑ってしまう主人公の弱さだけでなく、匿名で主人公をいじろうとする部員たちの卑怯さに気づき、トラブルが生まれた要因について整理していくことで、信頼できる友達とはどんな存在なのかについて改めて考えを深めることのできる教材である。

指導にあたっては、教材に描かれていない登場人物の会話を役割演技することで、主人公の視点だけでなく、複数の登場人物の視点を体験することを通して、トラブルの原因が登場人物の二人だけの問題でないことに気づかせたい。本学級でも不適切な発言が原因となるトラブルが起きたことがあるため、自分の言動を振り返る機会ともしたい。本時のヤマ場で学習した「信頼できる友達とは」という概念を、終末で「信頼できる友達になるために」と問うことで、自分事として考えさせて実践につなげたい。

5 準備物

・タブレット ・ 掲示資料(イラスト等)

6 学習過程

| 段階 | 学習活動・主な発問 | 予想される生徒の反応 | 指導上の留意点 |
|-----------------|--|--|--|
| 導入 展 | 1 「信頼できる友達」について考える。 「あなたにとって『信頼できる友達』とはどんな存在か。」 | ①ア、何でも話せる。 イ、思いやりがある。 ウ、裏切らない。 エ、理解してくれる。 オ、平等に接する。 | ・事前にアンケートをとり、結果を紹介し、共感できるかを確認しながら、教材に関心をもたせる。 ・価値観の違いによっては、友達に求めるものも異なることを確認する。 |
| | 2 本文を読み、話の概要を確認する。 | ②登場人物の人物像を発表し、話の概要を理解する。 | ・語句の解説などは丁寧にして、内容を理解しやすくする。 ・登場人物の人物像を整理することで、役割演技に入りやすくする。 |
| | 3 信也につかみかかったオサムの発言を考える。 | ③【信也】 ア、なんで俺がそんなことをする必要があるんだ。 イ、お前が頑張っているのを知っているのに。 【オサム】 ア、昔からからかってきたし、部活でミス責めてきたじゃないか。 イ、新しいスマホを買ったって言ってたし。 | ・「なぜこのトラブルが起きたのか」という補助発問をして、3の活動につなげる。 ・教師が信也役をして、代表者に予想したオサムの発言を発表させる。 ・発表後に「なぜオサムが信也を疑ったのか」を問う。 ・両者の間のズレを言語化しながら、ただの謝罪にならないように配慮する。 |
| 開 | 「オサムの写真をSNSにあげたことについて、どんな話し合いをすればよいか。」 | | |
| 終末 | 4 野球部員の会話をロールプレイする。【体験的活動】 | ④【信也】 ア、あんな写真を隠れて撮るなんて卑怯だ！絶対に許さないぞ！ イ、オサムに謝れ！ 【他の部員】 ア、信也もオサムのことからかかっていたじゃないか。 イ、オサムはまっさきに信也を疑っていたじゃないか。 【雄一】 ア、オサムは認めているってちゃんと伝えないと分からないんだよ。 イ、信也も見守っていたのに、オサムや他の人には誤解されていたかもね。 | ・グループで役割分担をして、オサムのいない部活動での信也と雄一と他の部員たちの会話を想像させる。 ・それぞれの立場を理解した上で、個人で考え、グループで意見交換する。 ・複数のグループに発表させる。 ・発表した人にどんな気持ちで会話をしたかを聞いてみる。 |
| | 5 トラブルの回避について考える。 「このトラブルはどうすれば防ぐことができただろう。」 | ⑤ア、オサムが信也のことを誤解し、勝手に決めつけてしまった。 イ、信也はオサムのことを認めていても、本人に伝わらず、からかっているようにしか見えなかった。 ウ、オサムのミスをからかっていいような雰囲気できていた。 | ・オサムが、信也を疑ったことについて謝罪するだけでは根本的な解決にならないことを確認し、軽口やいじりがなぜ拡散されたのかについて深く考えさせたい。 |
| | 6 頼める友達になることについて考える。 | ⑥ア、相手を認める。そして、伝える。 イ、支え合う。 ウ、ダメなところも指摘できる。 | ・自分が求める友達像ではなく、自分が友達として信頼される人間かを振り返る機会にし、全体で共有する場面をつくる。 |

7 評価

- ・ 役割演技を通して、多面的・多角的にトラブルの原因について考えようとしていたか。
- ・ 信頼できる友達になるために、自分事として考えようとしていたか。

第2学年道徳科学習指導案

1 主 題 いじめへの公正な態度 【内容項目C-(11) 公正，公平，社会正義】

2 教材名 「ヨシト」(日本文教出版)

3 ねらい 同調圧力に流され差別や偏見を傍観してしまう人間の弱さに気づき，集団の一人として差別や偏見を許さず正義を実現しようとする態度を育てる。

4 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について(価値観)

人間が生活していくうえでは，必ずと言っていいほど集団で生活していかななくてはならない。集団で生活するということは，他者とのかかわりあい也不可欠である。中学生の段階では自己の意志が弱いことが多く，周囲で不公正があっても，多数の意見に同調したり傍観したりするだけで制止することができないことがよくある。そうした自分の弱さに向き合いながら同調圧力に負けず，正義と公正を重んじる大切さを理解させたい。

(2) 生徒の実態について(生徒観)

この学年の生徒は，1年生の頃に教材「さかなのなみだ」で同調圧力に屈さないために自己と向き合い，正義や公正さを実現することの大切さを学んだ。また，5月にはいじめに関する教材として「5月の風—ミカー」で『本当の友達とは何か』ということに関してお互いが誠実に向き合い，本当の友達を作ろうとする実践意欲を高めた。

学級の生徒は素直で生徒同士の仲も良い。2年生になり，学級も半年が経ったことでお互いの関係に慣れてきているところは良いが，その反面，ちょっとした気遣いや配慮を欠いてしまうような姿が見られることもある。また来年最上級生になる中で，自分自身だけではなく『集団(社会)の中での自分』のあり方も考えていく必要があるだろう。

(3) 教材について(教材観)

本教材「ヨシト」は，主人公と幼馴染であるヨシトに対して，『変わっているやつ』で『空気が読めない』というクラスの雰囲気がある。主人公はヨシトの良さを分かっているながらその雰囲気に負け，うそをついてしまう。しかし最後にヨシトの良さを再認識し，不正を許さない心を持ち始める場面を描いたものである。仲が良い人物でも，周囲の多数の人間の考えに逆らい難くなって普段と違う態度をとってしまう場面は，生徒の多くが共感できるだろう。本教材では，一度は同調圧力に流される主人公の人間の弱さに気づかせ，集団の一人として差別や偏見を克服するにはどうすればよいのか議論し，深めさせたい。

指導にあたっては，教材にふくまれた問題点を整理しながら，なぜ同調圧力に葛藤するのかを考え，間違っている雰囲気を克服するために必要なことについて参考資料を利用しながら問題解決的に議論していきたい。問題解決学習にすることで，自分の視点だけではなく集団の一員として多面的・多角的に問題を考えさせたい。

5 準備物

・島田中S L P宣言 ・場面絵 ・タブレット

S L P 宣言

笑顔の輪を広げ，学校に居場所がある「**さびしさゼロ，いじめゼロ**」の学校を目指すため，以下のことを宣言します。

- 一，学校の友達を宝物にしよう。
- 一，自分がされて嬉しいことを周りの人にしてあげよう。
- 一，感謝の気持ちを素直に伝え合える人間関係を築こう。
- 一，来るのが楽しくなるような学校を目指そう
- 一，絆を深め，笑顔のたえない学校を築こう。

第3学年道徳科学習指導案

- 1 主 題 本当の友情とは 【内容項目B-(8) 友情, 信頼】
- 2 教材名 「違うんだよ, 健二」(日本文教出版)
- 3 ねらい 登場人物の友達関係の在り方について考える活動を通して, 友達との信頼関係を深めようとする道徳的実践意欲を高める。

4 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について(価値観)

本当の友情とは, 相互に変わらない信頼があって成り立つものであり, 相手に対する敬愛がその根底にある。中学生は, 感情の起伏が目立ち, ともするとささいなことから感情の行き違いが生じるなど, 不安定な時期である。そのためせつかくの友達関係が台無しになることもあるが, これらの悩みや葛藤を乗り越えることで, 真の友情は培われていくものである。分かち合い, 高め合い, 心からの友情や友情の尊さについて理解を深め, 自分を取り囲む友達との友情をより一層大切にすることを育てたい。葛藤しながらも友達との本当の信頼関係を築き, 真の友情を深めることの大切さに気付かせたい。

(2) 生徒の実態について(生徒観)

本学級の生徒は, 人間関係に固定化がみられ, 関係の深い友達とは積極的に関わるが, 新しい友達との関係を築くことや一度トラブルになってしまった相手と関係を修復することは消極的な様子が見られる。新しい関係を作ることが苦手なため, 自分の居場所をうまく見つけられない。そのため, トラブルを避けるために, 自分の意見を言わなかったり, 周りの空気に合わせて行動してしまったりすることがある。友達との関わりの中で, 本音で話し合う機会が減ってしまい互いの人間性に対する理解を深めていけないことが友達関係の修復の難しさなどにつながっている。

友情を築くためには, トラブルなどがあっても関係を修復できるような信頼をもつことの重要性に気付かせ, そのために必要な具体的な行動などについて考えさせたい。また, 生徒は文化祭で友情について学年劇をやっており, その場面も連想させることで友達の在り方について深く考えさせたい。

(3) 教材について(教材観)

本教材は, 僕と健二, 耕平の三人の友情関係について考えることを通して真の友情とは何かに迫り, 友人と深い信頼関係を築こうとする道徳的態度を育てることをねらいとしている。僕が, 幼なじみである耕平と転校生の健二との関わりを通して, よりよい友達関係のとらえ方が変化する姿を描いている。僕は耕平に合わせることで友達関係を築いてきた。しかし, 健二は合わせるばかりの僕に疑問をもっていた。僕の変容に着目することで, 本当の友達関係について考えられる教材である。

そこで指導にあたっては, 僕が耕平に合わせるだけになってしまっている二人の友達関係は, 信頼関係につながるかどうかを考えさせたい。そして, よりよい友達関係の構築のために, お互いの本音を伝え合う必要性について, 理解はしていても実践できない理由について, 切り替えし発問やゆさぶり発問をすることで, 人間関係を深めること自体に心配や気遣いがある人もいることに気づかせたい。そして, 友達と深い信頼関係を築こうとする道徳的実践意欲を高めたい。

5 準備物

- ・登場人物の提示絵
- ・心情表現の小物
- ・タブレット

6 学習過程

| 段階 | 学習活動・主な発問 | 予想される生徒の反応 | 指導上の留意点 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------|--|--|--|------|------|--|--|--|--|--|---|---|--|--|------|--|--|--|---|
| 導入 | 1 自分の友達の在り方を考える。 「何でも注意してくれる人と優しく受け止める人どちらを友達にしたいか。」 | ①ア, 優しい方がいい。 イ, 流してくれるのが楽。 ウ, 友達だからはっきり言ってほしい。 エ, 正しい事をいってほしい。 | ・アンケート結果を確認し, 友達への価値観を共有する。 ・文化祭学年劇の写真を見せ, 内容を振り返りながら本時の主題の友情に意識を向ける。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 2 本文を読み, 登場人物の関係を整理する。 「僕と耕平と健二の友達との関わり方には, どんな違いや課題があるか。」 | ②ア, 僕は適当に合わせる。 イ, 耕平は自分のペースで過ごす。 ウ, 健二はお節介をやく。 | ・1 で出した意見から自分と似た登場人物を考えさせ, 自分の友達関係について考える手がかりとする。 ・3 人の関係を比較し僕の友達関係の在り方に着目させ, 課題がないか問いかける。 ・耕平が僕に悩みを打ち明けなかった点に着目させることで, 僕と耕平の関係について考えを深めさせる。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 展開 | 3 友情における大事なことについて考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">「僕の気付いた大事なことは何か。」</div> | ③ア, 友達のために相談にのること。 イ, 困っている友達のために一歩踏み込む。 ウ, 合わせずに本音で話す。 エ, お互いに信頼関係を作る。 | ・信頼関係が重要な理由について問い, 終末への布石とする。 ・ウのような意見が出たら「友人なのに本音がいえないのはどうしてか」と問いかけ次の活動へつなげる。(切り返し) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;">「よりよい友達関係を作るためには, どうすればよいか。」</div> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 終末 | 4 友達関係の在り方について考える。 【問題解決】 「友達と意見が対立した場合, 関係はどうなるか。」 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0; text-align: center;"> <p>図1 伝える</p> <table style="margin: auto;"> <tr> <td style="padding: 5px;">悪くなる</td> <td style="padding: 5px;">ウ</td> <td style="padding: 5px;">ア</td> <td style="padding: 5px;">よくなる</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; height: 20px;"></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td style="padding: 5px;">エ</td> <td style="padding: 5px;">イ</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="2" style="padding: 5px;">伝えない</td> <td></td> </tr> </table> </div> | 悪くなる | ウ | ア | よくなる | | | | | | エ | イ | | | 伝えない | | | ④ア, 注意できることがお互いの関係を深める。 イ, 変化がない方が楽である。 ウ, 注意をしたことで悪口を言われるかもしれない。 エ, 注意をしないでいたら正義が通らなくなる。 | ・友達関係の構築について良い点や課題を考えさせるため, 学校生活での具体的な場面を設定する。 ・相手と対立した意見を伝えたときの予想される相手の反応や友達関係の深まりや崩れなどを考えさせる。 ・整理して考えさせるために図1のように図式させる。 ・嫌われたくないので対立できないという意見には相手優位の関係を続けられるか問う。 ・対立しない方が気楽であるという意見には, 深刻な悩みを打ち明けられるか問う。 ・対立を避けるという意見には友達が間違っているか問う。 |
| | 悪くなる | ウ | ア | よくなる | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | エ | イ | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 伝えない | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 振り返りをする。 | ⑤授業を振り返り感想を書く。 | ・文化祭の劇の歌を流し, 友情の良さについて前向きなイメージをもたせ, 自分の友達関係に生かそうと思わせる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | |

7 評価

- ・友情の在り方について自分自身の友達関係を考えながら, 深く考えることができたか。